



プロジェクトマネジメント
(研修ロードマップ)

2008. 10

独立行政法人情報処理推進機構

IT人材育成本部 ITスキル標準センター

経済産業省

目次

1. 研修コース群(体系図)	2頁
2. 研修コース一覧	6頁
3. 研修コースの内容	10頁

プロジェクトマネジメント(システム開発)の研修コース群(体系図)

	未経験レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7
テクノロジー			システム設計 システム構築 システム運用/保守	最新技術動向			コミュニティ活動	
メソドロジ				システム要件定義技法 コンサルティングメソドロジ	DOA構造化手法			
プロジェクトマネジメント			プロジェクトマネジメント基礎	プロジェクトマネジメント方法論	コンプレックスマネジメント			
				プロジェクトマネジメント実践	プロジェクトマネジメント上級			
				プロジェクトマネジメント最新動向				
ビジネス/インダストリ				インダストリアプリケーション動向				
				最新ビジネス動向				
パーソナル				プロジェクトマネジメントのリーダーシップ				
				プロジェクトマネジメントのコミュニケーション				
				プロジェクトマネジメントの協働セッション				

: 職種共通
 : 専門分野別選択

プロジェクトマネジメント(ITアウトソーシング)の研修コース群(体系図)

	未経験レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7
テクノロジー			システム設計 システム構築 システム運用/保守	最新技術動向			コミュニティ活動	
メソドロジ				システム要件定義技法 コンサルティングメソドロジ		アウトソーシングプロジェクトマネジメントのためのシステム運用管理方法論		
プロジェクトマネジメント			プロジェクトマネジメント基礎	プロジェクトマネジメント(ITアウトソーシング)の研修コース群(体系図)プロジェクトマネジメント	コンプレックスマネジメント			アウトソーシングビジネスのプロジェクトマネジメント
					プロジェクトマネジメント最新動向			
ビジネス/インダストリ				インダストリアプリケーション動向 最新ビジネス動向				
パーソナル				プロジェクトマネジメントのリーダーシップ				
				プロジェクトマネジメントのコミュニケーション				
				プロジェクトマネジメントの協働セッション				

: 職種共通

: 専門分野別選択

プロジェクトマネジメント(ネットワークサービス)の研修コース群(体系図)

	未経験レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7
テクノロジー			システム設計 システム構築 システム運用/保守	最新技術動向			コミュニティ活動	
メソドロジ				システム要件定義 技法 コンサルティング メソドロジ		ネットワーク プロジェクト マネジメント事例		
プロジェクト マネジメント			プロジェクト マネジメント 基礎	プロジェクト マネジメント 方法論	コンプレックスマネジメント			
				プロジェクト マネジメント 実践	プロジェクト マネジメント 上級			
				プロジェクトマネジメント最新動向				
ビジネス/ インダストリ				インダストリアプリケーション動向				
				最新ビジネス動向				
パーソナル				プロジェクトマネジメントのリーダーシップ				
				プロジェクトマネジメントのコミュニケーション				
				プロジェクトマネジメントの協働セッション				

: 職種共通

: 専門分野別選択

プロジェクトマネジメント(ソフトウェア製品開発)の研修コース群(体系図)

	未経験レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7
テクノロジー			システム設計 システム構築 システム運用/保守	最新技術動向			コミュニティ活動	
メソドロジー				システム要件定義 技法 コンサルティング メソドロジー		ソフトウェア製品 開発プロジェクト マネジメント		
プロジェクト マネジメント			プロジェクト マネジメント 基礎	プロジェクト マネジメント 方法論 プロジェクト マネジメント 実践 プロジェクト マネジメント 最新動向	プロジェクト マネジメント 上級 コンプレックスマネジメント			
ビジネス/ インダストリ				インダストリアプリケーション動向 最新ビジネス動向				
パーソナル				プロジェクトマネジメントのリーダーシップ プロジェクトマネジメントのコミュニケーション プロジェクトマネジメントのコラボレーション				

 : 職種共通

 : 専門分野別選択

プロジェクトマネジメント(システム開発)の研修コース一覧

ITスキル標準V3 2011_20120326

コース群の種類	コース群	コース名	研修方法			期間		頁		
			eラーニング	講義	ワークショップ	eラーニング (標準時間)	クラス (標準日数)			
職種共通	基礎講座	システム設計	システム設計の基礎	○	○	○	30	5	12	
		システム構築	システム構築	○		○	60	5	15	
		システム運用/保守	システム運用/保守	○	○	○	30	5	18	
		プロジェクトマネジメント基礎	プロジェクトマネジメント基礎	○			30		22	
		プロジェクトマネジメント実践	プロジェクトマネジメント実践		○	○		4	28	
			プロジェクトマネジメントツールとプロセス	○			12		33	
		システム要件定義技法	システム要件定義技法	○		○	12	3	36	
	コンサルティングメソッド	コンサルティングメソッド	○	○	○	12	2	39		
	上級講座	プロジェクトマネジメントのリーダーシップ	プロジェクトマネジメントのリーダーシップ			○		3	42	
		プロジェクトマネジメントのコミュニケーション	プロジェクトマネジメントのコミュニケーション			○		3	45	
		プロジェクトマネジメントのネゴシエーション	プロジェクトマネジメントのネゴシエーション			○		3	48	
		コンプレックスプロジェクトマネジメント	コンプレックスプロジェクトマネジメント			○		3	51	
		プロジェクトマネジメント上級	品質マネジメント			○	○		2	57
			リスクマネジメント				○		3	59
			ファイナンシャルマネジメント		○	○	○	24	3	61
			調達マネジメント			○	○		3	63
			プロジェクトマネジメントの契約管理		○			12		66
		特別講座	最新技術動向	最新技術動向		○			1	69
	プロジェクトマネジメント最新動向		プロジェクトマネジメント最新動向	○			3		72	
	最新ビジネス動向		最新ビジネス動向	○	○		3	0.5	78	
	インダストリアプリケーション動向		インダストリアプリケーション動向	○	○		12	2	81	
コミュニティ活動	コミュニティ活動		-	-	-	-	-	84		
専門分野別選択	基礎講座	プロジェクトマネジメント方法論(システム開発)	プロジェクトマネジメント方法論(システム開発)	○	○	○	18	2	87	
	上級講座	DOA 構造化手法	DOA 構造化手法	○			12		90	

プロジェクトマネジメント(ITアウトソーシング)の研修コース一覧

コース群の種類	コース群	コース名	研修方法			期間		頁		
			eラーニング	講義	ワークショップ	eラーニング (標準時間)	クラス (標準日数)			
職種共通	基礎講座	システム設計	システム設計の基礎	○	○	○	30	5	12	
		システム構築	システム構築	○		○	60	5	15	
		システム運用/保守	システム運用/保守	○	○	○	30	5	18	
		プロジェクトマネジメント基礎	プロジェクトマネジメント基礎	○			30		22	
		プロジェクトマネジメント実践	プロジェクトマネジメント実践		○	○		4		28
			プロジェクトマネジメントツールとプロセス	○			12		33	
		システム要件定義技法	システム要件定義技法	○		○	12	3	36	
	コンサルティングメソッドロジ	コンサルティングメソッドロジ		○	○		3	39		
	上級講座	プロジェクトマネジメントのリーダーシップ	プロジェクトマネジメントのリーダーシップ			○		3	42	
		プロジェクトマネジメントのコミュニケーション	プロジェクトマネジメントのコミュニケーション			○		3	45	
		プロジェクトマネジメントのネゴシエーション	プロジェクトマネジメントのネゴシエーション			○		3	48	
		コンプレックスプロジェクトマネジメント	コンプレックスプロジェクトマネジメント			○		3	51	
		プロジェクトマネジメント上級	品質マネジメント			○	○		2	57
			リスクマネジメント				○		3	59
			ファイナンシャルマネジメント		○	○	○	24	3	61
			調達マネジメント			○	○		3	63
		プロジェクトマネジメントの契約管理		○			12		66	
	特別講座	最新技術動向	最新技術動向		○			1	69	
		プロジェクトマネジメント最新動向	プロジェクトマネジメント最新動向	○			3		72	
		最新ビジネス動向	最新ビジネス動向	○	○		3	0.5	78	
		インダストリアプリケーション動向	インダストリアプリケーション動向	○	○		12	2	81	
		コミュニティ活動	コミュニティ活動	-	-	-	-	-	84	
	専門分野別選択	上級講座	アウトソーシングプロジェクトマネジメントのためのシステム運用管理方法論	アウトソーシングプロジェクトマネジメントのためのシステム運用管理方法論		○	○		3	108
アウトソーシングビジネスのプロジェクトマネジメント			アウトソーシングプロジェクトマネジメント概説		○	○		2	111	
		アウトソーシングプロジェクトマネジメント実践		○	○		5	116		
アウトソーシングプロジェクトマネジメントのための会計・経営管理概説			○			12		121		

プロジェクトマネジメント(ネットワークサービス)の研修コース一覧

コース群の種類	コース群	コース名	研修方法			期間		頁		
			eラーニング	講義	ワークショップ	eラーニング (標準時間)	クラス (標準日数)			
職種共通	基礎講座	システム設計	システム設計の基礎	○	○	○	30	5	12	
		システム構築	システム構築	○		○	60	5	15	
		システム運用/保守	システム運用/保守	○	○	○	30	5	18	
		プロジェクトマネジメント基礎	プロジェクトマネジメント基礎	○			30		22	
		プロジェクトマネジメント実践	プロジェクトマネジメント実践		○	○		4		28
			プロジェクトマネジメントツールとプロセス	○			12		33	
		システム要件定義技法	システム要件定義技法	○		○	12	3	36	
	コンサルティングメソッドロジ	コンサルティングメソッドロジ		○	○		3	39		
	上級講座	プロジェクトマネジメントのリーダーシップ	プロジェクトマネジメントのリーダーシップ			○		3	42	
		プロジェクトマネジメントのコミュニケーション	プロジェクトマネジメントのコミュニケーション			○		3	45	
		プロジェクトマネジメントのネゴシエーション	プロジェクトマネジメントのネゴシエーション			○		3	48	
		コンプレックスプロジェクトマネジメント	コンプレックスプロジェクトマネジメント			○		3	51	
		プロジェクトマネジメント上級	品質マネジメント			○	○		2	57
			リスクマネジメント				○		3	59
			ファイナンシャルマネジメント		○	○	○	24	3	61
			調達マネジメント			○	○		3	63
		プロジェクトマネジメントの契約管理		○			12		66	
	特別講座	最新技術動向	最新技術動向		○			1	69	
		プロジェクトマネジメント最新動向	プロジェクトマネジメント最新動向	○			3		72	
		最新ビジネス動向	最新ビジネス動向	○	○		3	0.5	78	
		インダストリアプリケーション動向	インダストリアプリケーション動向	○	○		12	2	81	
		コミュニティ活動	コミュニティ活動	-	-	-	-	-	84	
	専門分野別選択	基礎講座	プロジェクトマネジメント方法論(ネットワークサービス)	プロジェクトマネジメント方法論(ネットワークサービス)		○	○		2	93
上級講座		ネットワークプロジェクトマネジメント事例	ネットワークプロジェクトマネジメント事例	○			3		97	

プロジェクトマネジメント(ソフトウェア製品開発)の研修コース一覧

コース群の種類	コース群	コース名	研修方法			期間		頁		
			eラーニング	講義	ワークショップ	eラーニング (標準時間)	クラス (標準日数)			
職種共通	基礎講座	システム設計	システム設計の基礎	○	○	○	30	5	12	
		システム構築	システム構築	○		○	60	5	15	
		システム運用/保守	システム運用/保守	○	○	○	30	5	18	
		プロジェクトマネジメント基礎	プロジェクトマネジメント基礎	○			30		22	
		プロジェクトマネジメント実践	プロジェクトマネジメント実践		○	○		4		28
			プロジェクトマネジメントツールとプロセス	○			12		33	
		システム要件定義技法	システム要件定義技法	○		○	12	3	36	
	コンサルティングメソッドロジ	コンサルティングメソッドロジ		○	○		3	39		
	上級講座	プロジェクトマネジメントのリーダーシップ	プロジェクトマネジメントのリーダーシップ			○		3	42	
		プロジェクトマネジメントのコミュニケーション	プロジェクトマネジメントのコミュニケーション			○		3	45	
		プロジェクトマネジメントのネゴシエーション	プロジェクトマネジメントのネゴシエーション			○		3	48	
		コンプレックスプロジェクトマネジメント	コンプレックスプロジェクトマネジメント	コンプレックスプロジェクトマネジメント			○		3	51
			品質マネジメント			○	○		2	57
			リスクマネジメント				○		3	59
			ファイナンシャルマネジメント		○	○	○	24	3	61
			調達マネジメント			○	○		3	63
		プロジェクトマネジメントの契約管理		○			12		66	
	特別講座	最新技術動向	最新技術動向		○			1	69	
		プロジェクトマネジメント最新動向	プロジェクトマネジメント最新動向	○			3		72	
		最新ビジネス動向	最新ビジネス動向	○	○		3	0.5	78	
		インダストリアプリケーション動向	インダストリアプリケーション動向	○	○		12	2	81	
		コミュニティ活動	コミュニティ活動	-	-	-	-	-	84	
	専門分野別選択	基礎講座	プロジェクトマネジメント方法論(ソフトウェア製品開発)	プロジェクトマネジメント方法論(ソフトウェア製品開発)		○	○		5	100
上級講座		ソフトウェア開発プロジェクトマネジメント	ソフトウェア開発プロジェクトマネジメント		○	○		5	104	

プロジェクトマネジメント
研修コースの内容
＜職種共通＞

システム設計（1コース）

- システム設計の基礎

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	システム設計の基礎
講座分類	<input type="checkbox"/> 入門講座 <input checked="" type="checkbox"/> 基礎講座 <input type="checkbox"/> 上級講座 <input type="checkbox"/> 特別講座
対象専門分野	<input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトマネジメント共通 <input type="checkbox"/> システム開発 <input type="checkbox"/> ITアウトソーシング <input type="checkbox"/> ネットワークサービス <input type="checkbox"/> ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、アプリケーションの種類を問わず一般的な情報システムを設計する上で普遍的に必要なメソッド、テクニック、デザインパターンなど、システム設計に係る広範な領域に関する基礎知識の修得を目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、情報システムの業務要件の分析手法、外部設計と内部設計に必要な知識、ユーザや他システムとのインターフェイスの設計手法などを学習する。また、それらに付随する情報システムの処理フロー設計や、設計を行うために用いられる各種図表、ツールなどもあわせて学習する。</p> <p>○ コース前半は、情報システムの設計に関する基礎知識をeラーニング形式で学習する。後半は、講義形式に加えて実際の情報システムの開発に模したプロジェクトでの設計作業をワークショップ形式で実践的に学習する。</p>
受講対象者	システム開発のプロジェクトメンバとして運用管理などのプロジェクトに参加した経験を持ち、プロジェクトマネジメントを目指している者(プロジェクトマネジメントのレベル3を目指す者)
受講前提	「システム開発基礎」コース群を終了していること。または同等の知識を有すること。
研修方法	eラーニング、講義、ワークショップ
期間	前半:標準時間 30時間 (eラーニング 1日 6時間×5日)、後半 標準日数 5日(クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	システムの設計に関する基本的な知識を活用し、プロジェクトメンバとして、独力でシステム設計を実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
業務分析	ー技術要件分析 現行IT環境分析、新規技術要件の把握、ニーズの分析と優先順位付け
テクノロジー	ー技術問題解決手法 技術問題解決手法の活用と実践
デザイン	ーデータベース、ミドルウェア、分散コンピューティング設計 最適データベースの選定、最適ミドルウェアの選定、最適分散コンピューティング選定、データベース機能および制約事項の理解、ミドルウェア機能および制約事項の理解、分散コンピューティング機能および制約事項の理解、データベースを利用したアプリケーション設計の実践、ミドルウェアを利用したアプリケーション設計の実践、分散コンピューティングを利用したアプリケーション設計の実践

システム構築（1コース）

- システム構築

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	システム構築
講座分類	<input type="checkbox"/> 入門講座 <input checked="" type="checkbox"/> 基礎講座 <input type="checkbox"/> 上級講座 <input type="checkbox"/> 特別講座
対象専門分野	<input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトマネジメント共通 <input type="checkbox"/> システム開発 <input type="checkbox"/> ITアウトソーシング <input type="checkbox"/> ネットワークサービス <input type="checkbox"/> ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、情報システムの構築に関する基礎知識の修得を目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、アプリケーションの構築に必要とされる言語のほかに、代表的なアルゴリズム、アプリケーションをテストする際の妥当性や結果の評価方法、情報システムの導入、移行やプロジェクトの進捗管理手法などを学習する。</p> <p>○ コース前半では、情報システムの構築を行う際に用いられる代表的な言語やミドルウェアで使用される言語のプログラミング実習を行うほか、代表的なアルゴリズム、プログラミングで使用される各種ツール、プロジェクトを円滑に遂行するために用いられる進捗状況の把握方法などをeラーニング形式で学習する。後半は、実際の情報システムの構築に模した環境におけるコーディング、管理業務に関する演習についてワークショップ形式で実践的に学習する。</p> <p>○ コース前半のプログラミング学習をeラーニング形式で行う際には、できる限り実際のシステム構築環境に近い実習環境が構築されていることが望ましい。</p>
受講対象者	プロジェクトメンバとしてシステム開発などのプロジェクトに参加した経験を持ち、プロジェクトマネジメントを目指している者(プロジェクトマネジメントのレベル3を目指す者)
受講前提	「システム開発基礎」コース群を終了していること。または同等の知識を有すること。
研修方法	eラーニング、ワークショップ
期間	前半:標準時間 60時間 (eラーニング 1日 6時間×10日)、後半:標準日数 5日(クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	システムの構築に関する基本的な知識を活用し、プロジェクトメンバとして、独力でシステム構築を実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト・タイム・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －アクティビティ所要期間見積り 専門家の判断、類推見積り、係数見積り、三点見積り、予備設定分析 －スケジュール作成 スケジュール・ネットワーク分析、クリティカル・パス法、スケジュール短縮、What-If シナリオ分析、資源平準化、クリティカル・チェーン法、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、カレンダーの適用、リードとラグの調整、スケジュール・モデル －スケジュール・コントロール 進捗報告、スケジュール変更管理システム、パフォーマンス測定、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、差異分析、バー・チャートによるスケジュール対比
テクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> －技術問題解決手法 技術問題解決手法の活用と実践

システム運用／保守（1コース）

- システム運用／保守

コース名	システム運用／保守
研修コースの内容	
講座分類	□入門講座 ■基礎講座 □上級講座 □特別講座
対象専門分野	■ プロジェクトマネジメント共通 □システム開発 □ITアウトソーシング □ネットワークサービス □ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、情報システムの運用、保守に関する基礎知識の修得を目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、情報システムを円滑に稼働するために必要となる各種管理(運用管理、問題管理、変更管理、構成管理、パフォーマンス管理、キャパシティ管理、セキュリティ管理、サービスレベル管理、情報資産管理)の項目、手法、基準を学習する。また、オペレーティングシステムや重要なミドルウェアの障害時の対応、情報システムに対する監視、パフォーマンスの管理、人による誤操作や障害に対する対策、復旧、市販アプリケーションのバージョンアップなどの保守に関しても学習する。</p> <p>○ コース前半は、情報システムの運用、保守に関する基本的知識をeラーニング形式で学習する。後半は、講義形式に加えて、既に運用されている情報システムに模した環境における演習についてワークショップ形式で実践的に学習する。</p>
受講対象者	プロジェクトメンバとしてシステム開発・運用管理などのプロジェクトに参加した経験を持ち、プロジェクトマネジメントを目指している者(プロジェクトマネジメントのレベル3を目指す者)
受講前提	ITの基礎知識およびシステム開発の基礎知識を有し、システム開発・運用管理などのプロジェクトに参加した経験を有すること
研修方法	eラーニング、講義、ワークショップ
期間	前半:標準時間 30時間 (eラーニング 1日 6時間×5日)、後半:標準日数 5日(クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	システムの運用、保守に関する基本的な知識を活用し、プロジェクトメンバとして、独力でシステムの運用、保守を実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト統合マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －統合変更管理 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断
プロジェクト・タイム・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －アクティビティ定義 要素分解、テンプレート、ローリング・ウェーブ計画法、専門家の判断、計画構成要素 －アクティビティ順序設定 プレシデンス・ダイアグラム法(PDM)、アロー・ダイアグラム法(ADM)、スケジュール・ネットワーク・テンプレート、依存関係の決定、リードとラグの適用 －アクティビティ資源見積り 専門家の判断、代替案分析、公開見積りデータ、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、ボトムアップ見積り －アクティビティ所要期間見積り 専門家の判断、類推見積り、係数見積り、三点見積り、予備設定分析 －スケジュール作成 スケジュール・ネットワーク分析、クリティカル・パス法、スケジュール短縮、What-If シナリオ分析、資源平準化、クリティカル・チェーン法、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、カレンダーの適用、リードとラグの調整、スケジュール・モデル －スケジュール・コントロール 進捗報告、スケジュール変更管理システム、パフォーマンス測定、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、差異分析、バー・チャートによるスケジュール対比
プロジェクト・リスク・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －リスク・マネジメント計画 計画会議と分析 －リスク識別 文書レビュー、情報収集技法(ブレインストーミング、デルファイ法、SWOT 分析)、チェックリスト分析、前提条件分析、図解の技法 －定性的リスク分析 リスク発生確率・影響度査定、発生確率・影響度マトリックス、リスク・データ品質査定、リスク区分、リスク緊急度査定 －定量的リスク分析 データ収集・表現技法、定量的リスク分析とモデル化の技法(感度分析、期待金額価値分析、デンジョン・ツリー分析、モンテカルロ法) －リスク対応計画 マイナスのリスク(脅威)に対する戦略(回避、転嫁、軽減)、プラスのリスク(好機)に対する戦略(活用、共有、強化)、脅威・好機両面戦略(受容、コンティンジェンシ予備)、発生時対応戦略 －リスクの監視コントロール リスク再査定、リスク監査、差異・傾向分析、技術的実績の測定、予備設定分析、状況確認ミーティング

対象スキル項目	関連する知識
テクノロジー	一技術問題解決手法 技術問題解決手法の活用と実践

プロジェクトマネジメント基礎（1コース）

- プロジェクトマネジメント基礎

コース名	プロジェクトマネジメント基礎
研修コースの内容	
講座分類	□入門講座 ■基礎講座 □上級講座 □特別講座
対象専門分野	■ プロジェクトマネジメント共通 □システム開発 □ITアウトソーシング □ネットワークサービス □ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、プロジェクトマネジメントに関する基礎的な知識の修得を目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、「PMBOK」に準じて、プロジェクトの定義、組織化、計画策定、スケジュール策定、プロジェクト実施と管理、プロジェクト完了等、プロジェクトマネジメント全局面の知識領域について基礎的な内容を網羅しており、業種や分野別の特性にとらわれない汎用的なプロジェクトマネジメントの概念を学習する。</p>
受講対象者	システム開発・運用管理などのプロジェクトに参加した経験を持ち、プロジェクトマネジメントを目指している者(プロジェクトマネジメントのレベル3を目指す者)
受講前提	ITの基礎知識およびシステム開発の基礎知識を有し、システム開発・運用管理などのプロジェクトに参加した経験を有すること
研修方法	eラーニング
期間	標準時間 30時間（1日6時間×5日）
研修修了後のスキル修得目標	プロジェクトマネジメントに関する基礎的な知識を活用し、プロジェクトメンバとして、プロジェクトマネジメントを実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト統合マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －プロジェクト憲章作成 プロジェクト選定手法、プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクト・スコープ記述書暫定版作成 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクトマネジメント計画書作成 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクト実行の指揮・マネジメント プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS) －プロジェクト作業の監視コントロール プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、アード・バリュー法、専門家の判断 －統合変更管理 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクト終結 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断
プロジェクト・スコープ・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －スコープ計画 専門家の判断、テンプレート、書式標準 －スコープ定義 プロダクト分析、代替案識別、専門家の判断、ステークホルダー分析 －WBS作成 ワーク・ブレイクダウン・ストラクチャーのテンプレート、要素分解 －スコープ検証 検査 －スコープ・コントロール 変更管理システム、差異分析、再計画、コンフィグレーション・マネジメント・システム

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト・タイム・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －アクティビティ定義 要素分解、テンプレート、ローリング・ウェーブ計画法、専門家の判断、計画構成要素 －アクティビティ順序設定 プレシデンス・ダイアグラム法(PDM)、アロー・ダイアグラム法(ADM)、スケジュール・ネットワーク・テンプレート、依存関係の決定、リードとラグの適用 －アクティビティ資源見積り 専門家の判断、代替案分析、公開見積りデータ、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、ボトムアップ見積り －アクティビティ所要期間見積り 専門家の判断、類推見積り、係数見積り、三点見積り、予備設定分析 －スケジュール作成 スケジュール・ネットワーク分析、クリティカル・パス法、スケジュール短縮、What-if シナリオ分析、資源平準化、クリティカル・チェーン法、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、カレンダーの適用、リードとラグの調整、スケジュール・モデル －スケジュール・コントロール 進捗報告、スケジュール変更管理システム、パフォーマンス測定、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、差異分析、バー・チャートによるスケジュール対比
プロジェクト・コスト・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －コスト見積り 類推見積り、資源単価、ボトムアップ見積り、係数見積り、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、ベンダー入札の分析、予備設定分析、品質コスト －コストの予算化 コスト集約、予備設定分析、係数見積り、限度額による資金調整 －コスト・コントロール コスト変更管理システム、パフォーマンス測定分析、予測、プロジェクトのパフォーマンス・レビュー、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、差異マネジメント
プロジェクト品質マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －品質計画 費用便益分析、ベンチマーク、実験計画法、品質コスト(COQ)、その他の品質計画ツール －品質保証 品質計画のツールと技法、品質監査、プロセス分析、品質管理のツールと技法 －品質管理 特性要因図、管理図、フローチャート化、ヒストグラム、パレート図、ラン・チャート、散布図、統計的サンプリング、検査、欠陥修正レビュー

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト人的資源マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －人的資源計画 組織図と順位記述書、ネットワーキング、組織論 －プロジェクト・チーム編成 先行任命、交渉、調達、バーチャル・チーム －プロジェクト・チーム育成 一般的なマネジメント・スキル、トレーニング、チーム形成活動、行動規範、コロケーション、表彰と報奨 －プロジェクト・チームのマネジメント 観察と会話、プロジェクトのパフォーマンス評価、コンフリクト・マネジメント、課題ログ
プロジェクト・コミュニケーション・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －コミュニケーション計画 コミュニケーションに対する要求事項の分析、コミュニケーション技術 －情報配布 コミュニケーション・スキル、情報収集検索システム、情報配布手法、教訓プロセス －実績報告 情報提示ツール、パフォーマンス情報の収集・編集、状況レビュー会議、タイム報告システム、コスト報告システム －ステークホルダー・マネジメント コミュニケーション手段、課題ログ
プロジェクト・リスク・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －リスク・マネジメント計画 計画会議と分析 －リスク識別 文書レビュー、情報収集技法(ブレインストーミング、デルファイ法、SWOT分析)、チェックリスト分析、前提条件分析、図解の技法 －定性的リスク分析 リスク発生確率・影響度査定、発生確率・影響度マトリックス、リスク・データ品質査定、リスク区分、リスク緊急度査定 －定量的リスク分析 データ収集・表現技法、定量的リスク分析とモデル化の技法(感度分析、期待金額価値分析、デシジョン・ツリー分析、モンテカルロ法) －リスク対応計画 マイナスのリスク(脅威)に対する戦略(回避、転嫁、軽減)、プラスのリスク(好機)に対する戦略(活用、共有、強化)、脅威・好機両面戦略(受容、コンティンジェンシ予備)、発生時対応戦略 －リスクの監視コントロール リスク再査定、リスク監査、差異・傾向分析、技術的実績の測定、予備設定分析、状況確認ミーティング

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト調達マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －購入・取得計画 内外製分析、専門家の判断、契約タイプ －契約計画 標準書式、専門家の判断 －納入者回答依頼 入札説明会、入札公告、適格納入者リストの作成 －納入者選定 重み付け法、独自見積り、スクリーニング・システム、契約交渉、納入者点数評価システム、専門家の判断、プロポーザル評価技法 －契約管理 契約変更管理システム、購入者主催のパフォーマンス・レビュー、検査及び監査、実績報告、支払システム、クレーム管理、記録マネジメント・システム、情報技術 －契約終結 調達監査、記録マネジメント・システム

プロジェクトマネジメント実践（2コース）

- プロジェクトマネジメント実践
- プロジェクトマネジメントツールとプロセス

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	プロジェクトマネジメント実践
講座分類	□入門講座 ■基礎講座 □上級講座 □特別講座
対象専門分野	■ プロジェクトマネジメント共通 □システム開発 □ITアウトソーシング □ネットワークサービス □ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、「プロジェクトマネジメント基礎」の後続となる「プロジェクトマネジメント実践」コース群の一つとして、プロジェクトマネジメント全般に関する実践的な知識の修得を目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、「プロジェクトマネジメント基礎」にて修得した基礎知識をもとに、演習と事例研究により補強し、より実践的な知識へとステップアップする。</p> <p>○ 当コースは、講義形式でプロジェクトマネジメントの基礎的な理論と技法を確認し、ワークショップ形式の事例研究で実践的に学習する。</p>
受講対象者	プロジェクトメンバとして、複数回のプロジェクトに参画した経験を持つ者(プロジェクトマネジメントのレベル4を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント基礎」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義、ワークショップ
期間	標準日数 4日 (クラスルーム)
研修修了後の スキル修得目標	プロジェクトマネジメントに関する実践的な知識を活用し、プロジェクト責任者として、プロジェクトを実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト統合マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －プロジェクト憲章作成 プロジェクト選定手法、プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクト・スコープ記述書暫定版作成 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクトマネジメント計画書作成 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクト実行の指揮・マネジメント プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS) －プロジェクト作業の監視コントロール プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、アード・バリュー法、専門家の判断 －統合変更管理 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクト終結 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断
プロジェクト・スコープ・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －スコープ計画 専門家の判断、テンプレート、書式標準 －スコープ定義 プロダクト分析、代替案識別、専門家の判断、ステークホルダー分析 －WBS作成 ワーク・ブレイクダウン・ストラクチャーのテンプレート、要素分解 －スコープ検証 検査 －スコープ・コントロール 変更管理システム、差異分析、再計画、コンフィグレーション・マネジメント・システム

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト・タイム・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －アクティビティ定義 要素分解、テンプレート、ローリング・ウェーブ計画法、専門家の判断、計画構成要素 －アクティビティ順序設定 プレシデンス・ダイアグラム法(PDM)、アロー・ダイアグラム法(ADM)、スケジュール・ネットワーク・テンプレート、依存関係の決定、リードとラグの適用 －アクティビティ資源見積り 専門家の判断、代替案分析、公開見積りデータ、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、ボトムアップ見積り －アクティビティ所要期間見積り 専門家の判断、類推見積り、係数見積り、三点見積り、予備設定分析 －スケジュール作成 スケジュール・ネットワーク分析、クリティカル・パス法、スケジュール短縮、What-If シナリオ分析、資源平準化、クリティカル・チェーン法、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、カレンダーの適用、リードとラグの調整、スケジュール・モデル －スケジュール・コントロール 進捗報告、スケジュール変更管理システム、パフォーマンス測定、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、差異分析、バー・チャートによるスケジュール対比
プロジェクト・コスト・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －コスト見積り 類推見積り、資源単価、ボトムアップ見積り、係数見積り、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、ベンダー入札の分析、予備設定分析、品質コスト －コストの予算化 コスト集約、予備設定分析、係数見積り、限度額による資金調整 －コスト・コントロール コスト変更管理システム、パフォーマンス測定分析、予測、プロジェクトのパフォーマンス・レビュー、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、差異マネジメント
プロジェクト品質マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －品質計画 費用便益分析、ベンチマーク、実験計画法、品質コスト(COQ)、その他の品質計画ツール －品質保証 品質計画のツールと技法、品質監査、プロセス分析、品質管理のツールと技法 －品質管理 特性要因図、管理図、フローチャート化、ヒストグラム、パレート図、ラン・チャート、散布図、統計的サンプリング、検査、欠陥修正レビュー

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト人的資源マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －人的資源計画 組織図と順位記述書、ネットワーキング、組織論 －プロジェクト・チーム編成 先行任命、交渉、調達、バーチャル・チーム －プロジェクト・チーム育成 一般的なマネジメント・スキル、トレーニング、チーム形成活動、行動規範、コロケーション、表彰と報奨 －プロジェクト・チームのマネジメント 観察と会話、プロジェクトのパフォーマンス評価、コンフリクト・マネジメント、課題ログ
プロジェクト・コミュニケーション・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －コミュニケーション計画 コミュニケーションに対する要求事項の分析、コミュニケーション技術 －情報配布 コミュニケーション・スキル、情報収集検索システム、情報配布手法、教訓プロセス －実績報告 情報提示ツール、パフォーマンス情報の収集・編集、状況レビュー会議、タイム報告システム、コスト報告システム －ステークホルダー・マネジメント コミュニケーション手段、課題ログ
プロジェクト・リスク・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －リスク・マネジメント計画 計画会議と分析 －リスク識別 文書レビュー、情報収集技法(ブレインストーミング、デルファイ法、SWOT分析)、チェックリスト分析、前提条件分析、図解の技法 －定性的リスク分析 リスク発生確率・影響度査定、発生確率・影響度マトリックス、リスク・データ品質査定、リスク区分、リスク緊急度査定 －定量的リスク分析 データ収集・表現技法、定量的リスク分析とモデル化の技法(感度分析、期待金額価値分析、デシジョン・ツリー分析、モンテカルロ法) －リスク対応計画 マイナスのリスク(脅威)に対する戦略(回避、転嫁、軽減)、プラスのリスク(好機)に対する戦略(活用、共有、強化)、脅威・好機両面戦略(受容、コンティンジェンシ予備)、発生時対応戦略 －リスクの監視コントロール リスク再査定、リスク監査、差異・傾向分析、技術的実績の測定、予備設定分析、状況確認ミーティング

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト調達マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －購入・取得計画 内外製分析、専門家の判断、契約タイプ －契約計画 標準書式、専門家の判断 －納入者回答依頼 入札説明会、入札公告、適格納入者リストの作成 －納入者選定 重み付け法、独自見積り、スクリーニング・システム、契約交渉、納入者点数評価システム、専門家の判断、プロポーザル評価技法 －契約管理 契約変更管理システム、購入者主催のパフォーマンス・レビュー、検査及び監査、実績報告、支払システム、クレーム管理、記録マネジメント・システム、情報技術 －契約終結 調達監査、記録マネジメント・システム

コース名	プロジェクトマネジメントツールとプロセス
研修コースの内容	
講座分類	□入門講座 ■基礎講座 □上級講座 □特別講座
対象専門分野	■ プロジェクトマネジメント共通 □システム開発 □ITアウトソーシング □ネットワークサービス □ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、「プロジェクトマネジメント基礎」の後続となる「プロジェクトマネジメント実践」コース群の一つとして、プロジェクトマネジメントに有用な管理ツール、プロジェクトマネジメントの実行に係る業務的手続きに関する知識の修得を目的とする。</p> <p>○ 当コースは、実際のプロジェクトで活用している市販を中心としたプロジェクトマネジメント用ツールに関する機能概要と利用方法、プロジェクトマネジメントを実際に行うに当たって各企業において必要となるプロジェクトの登録、契約管理、要員管理、外注管理、進捗管理、変更管理、完了手続きなどの業務プロセスを学習する。</p> <p>○ 当コースは、学習対象とするツールによってはワークショップ形式で行うことも想定される。また、研修期間も学習に応じて異なる。</p>
受講対象者	プロジェクトメンバとして、複数回のプロジェクトに参画した経験を持つ者(プロジェクトマネジメントのレベル4を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント基礎」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング、(必要に応じてワークショップ)
期間	標準時間 12時間 (eラーニング 1日 6時間×2日) ただし、実際には研修対象とするツールあるいは業務プロセスを規定する企業毎に必要なとする所要時間は異なる
研修修了後のスキル修得目標	プロジェクトマネジメントツールを活用しまた適切なプロジェクトマネジメント業務プロセスを踏まえて、プロジェクト責任者として、プロジェクトを実施できる。

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト統合マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －プロジェクト憲章作成 プロジェクト選定手法、プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクトマネジメント計画書作成 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクト実行の指揮・マネジメント プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS) －統合変更管理 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断

システム要件定義技法（1コース）

- システム要件定義技法

コース名	システム要件定義技法
研修コースの内容	
講座分類	□入門講座 ■基礎講座 □上級講座 □特別講座
対象専門分野	■プロジェクトマネジメント共通 □システム開発 □ITアウトソーシング □ネットワークサービス □ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、顧客の業務要件、システム要件を客観的に定義し、システム構築を円滑に推進する上で必要となる要件定義のプロセス、技法に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、事業戦略、事業方針の確認、プロジェクト・スコープの定義、利用部門へのインタビュー、データの収集、整理、分析、新旧ビジネスプロセスの分析、設計、システム環境分析、システム要件の定義、要件の確認、要件定義書の作成などの、要件定義局面における基本的なプロセスと、開発期間、予算、体制等の制約条件に基づく顧客要件の優先順位付けと要件絞り込み、決定といった、実際のプロジェクト運営で必要となる実践的な要件定義適用方法論を学習する。</p> <p>○ コース前半は、基本的な要件定義のプロセス、考慮点に関する知識をeラーニング形式で学習する。後半は、顧客要件の把握と絞り込み事例などの疑似体験といったワークショップ形式で学習する。</p>
受講対象者	プロジェクトメンバとして、複数回のプロジェクトに参画した経験を持つ者(プロジェクトマネジメントのレベル4を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング、ワークショップ
期間	前半:標準時間 12時間 (eラーニング 1日 6時間×2日)、後半:標準日数 3日 (クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	顧客の業務要件を理解し要件定義に関する知識を活用し、プロジェクト責任者として、システムの要件定義を実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
業務分析	<ul style="list-style-type: none"> －業務要件分析 ユーザニーズの把握、ニーズの分析と優先順位付け －技術要件分析 現行IT環境分析、新規技術要件の把握、ニーズの分析と優先順位付けユーザとのリレーション確立 －インダストリ知識 インダストリ共通アプリケーションに関する知識の活用、インダストリ固有アプリケーションに関する知識の活用、インダストリビジネス動向の把握、インダストリ技術動向の把握、インダストリ競合状況の把握、インダストリ用語の把握と活用、関連法規の把握と活用、インダストリ別事業環境の把握と活用、インダストリ別ビジネス慣行の把握と活用、インダストリ固有業務内容の把握と活用

コンサルティングメソドロジー（1コース）

- コンサルティングメソドロジー

コース名 研修コースの内容	コンサルティングメソドロジー
講座分類	□入門講座 ■基礎講座 □上級講座 □特別講座
対象専門分野	■プロジェクトマネジメント共通 □システム開発 □ITアウトソーシング □ネットワークサービス □ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、コンサルティングの基本的な方法論、コンサルティングプロセス、そのプロセスで使われるテクニックを理解し、実践するための知識の修得を目的とする。</p> <p>○ コース前半は、コンサルティング技法を使ったコンサルティングプロセス全体の作業の流れ、データ収集、整理、分析方法、課題の抽出と分析方法、解決策の検討と策定の進め方、問題解決のプロセス、論理的かつ効果的なレポートの作成とプレゼンテーション手法や折衝方法などをeラーニング形式で学習する。後半は、コンサルティングの方法論を活用したコンサルティングプロセスの適用方法と適用事例の検討をワークショップ形式で学習する。</p>
受講対象者	プロジェクトメンバとして、複数回のプロジェクトに参画した経験を持つ者(プロジェクトマネジメントのレベル4を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング、講義、ワークショップ
期間	前半:標準時間 12時間 (eラーニング:1日 6時間×2日間)、後半:標準日数 2日(クラスルーム)
研修修了後の スキル修得目標	コンサルティングに関する基礎的な知識を活用し、プロジェクト責任者として、効果的なコンサルティングプロセスを実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト統合マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －プロジェクトマネジメント計画書作成 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断
コンサルティング技法の活用	<ul style="list-style-type: none"> －コンサルティングメソッドの選択と活用 コンサルティングメソッドの比較と分析、選定と適用、プロセスの定義と実践、成果物の定義と作成
知的資産管理(Knowledge Management)活用	<ul style="list-style-type: none"> －知的資産の管理と活用 知的資産のデータベース化(付加価値、構造化、共有化)、知的資産の活用、知的資産の維持と管理、効果の把握と改善の実施、ビジネスモデル特許

プロジェクトマネジメントのリーダーシップ

(1コース)

- プロジェクトマネジメントのリーダーシップ

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	プロジェクトマネジメントのリーダーシップ
講座分類	<input type="checkbox"/> 入門講座 <input type="checkbox"/> 基礎講座 <input checked="" type="checkbox"/> 上級講座 <input type="checkbox"/> 特別講座
対象専門分野	<input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトマネジメント共通 <input type="checkbox"/> システム開発 <input type="checkbox"/> ITアウトソーシング <input type="checkbox"/> ネットワークサービス <input type="checkbox"/> ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、あらゆるプロジェクトの成功要因である目標の設定、チーム形成、チーム内およびチーム外とのコミュニケーション、プロジェクト実施項目の作成、推進、管理、動機づけに関する実践的なスキルの修得を目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、中規模以上または複雑なプロジェクトを推進していく上で必要なリーダーシップ、自身に対する動機づけ、チーム形成を通じたチームメンバーに対する動機づけ、対人スキル、確執の管理と合意形成について、ロールプレイを取り入れてワークショップ形式で実践的に学習する。</p>
受講対象者	プロジェクトリーダーまたはプロジェクトメンバーとして、複数のプロジェクトを実施した経験を有する者(プロジェクトマネジメントのレベル4、またはレベル5を目指す者)
受講前提	リーダーシップに関する基礎的な知識を有していること
研修方法	ワークショップ
期間	標準日数 3日 (クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	プロジェクトチームを管理、運営する実践的なスキルを活用し、プロジェクト責任者として、リーダーシップを発揮し、指揮命令しプロジェクトを実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
リーダーシップ	ーリーダーシップ リーダーシップの基本や原則の把握と実践、チームワークとコミュニケーションの実践、プロジェクト目標の設定、プロジェクトの推進、プロジェクトの実行、プロジェクトマネジメント、チームメンバーの連携、チームメンバーの動機付けと達成感の提供

プロジェクトマネジメントのコミュニケーション

(1コース)

- プロジェクトマネジメントのコミュニケーション

コース名 研修コースの内容	プロジェクトマネジメントのコミュニケーション
講座分類	□入門講座 □基礎講座 ■上級講座 □特別講座
対象専門分野	■プロジェクトマネジメント共通 □システム開発 □ITアウトソーシング □ネットワークサービス □ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、あらゆるプロジェクトの成功要因であるプロジェクト関係者との効果的、効率的なコミュニケーションに関する実践的なスキルの修得を目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、中規模以上または複雑なプロジェクトを推進していく上で必要な2Wayコミュニケーション、情報伝達、情報処理について、ロールプレイを取り入れてワークショップ形式で実践的に学習する。</p>
受講対象者	プロジェクトリーダーまたはプロジェクトメンバとして、複数のプロジェクトを実施した経験を有する者(プロジェクトマネジメントのレベル4、またはレベル5を目指す者)
受講前提	コミュニケーションに関する基礎的な知識を有していること
研修方法	ワークショップ
期間	標準日数 3日(クラスルーム)
研修修了後の スキル修得目標	プロジェクト関係者とのコミュニケーションに関する実践的なスキルを活用し、プロジェクト責任者として、顧客責任者と効果的な意思疎通を図ることができる。

対象スキル項目	関連する知識
コミュニケーション	-2Wayコミュニケーション 対話およびインタビューの実施、意思疎通、コミュニケーション手法の活用と実践、効果的な話し方、聞き方の実践 -情報伝達 プレゼンテーション技術の活用と実践、公式または非公式文書の作成、文書表現および表現力の活用と実践、メディア選択、説得技法の活用と実践 -情報の整理・分析・検索 状況対応能力の育成と実践、状況理解力の活用と実践、ミーティング運営技術の活用と実践

プロジェクトマネジメントのネゴシエーション

(1コース)

- プロジェクトマネジメントのネゴシエーション

コース名	プロジェクトマネジメントのネゴシエーション
研修コースの内容	
講座分類	□入門講座 □基礎講座 ■上級講座 □特別講座
対象専門分野	■プロジェクトマネジメント共通 □システム開発 □ITアウトソーシング □ネットワークサービス □ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、プロジェクトのあらゆる状況、場面におけるネゴシエーションに関する実践的なスキルの修得を目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、中規模以上または複雑なプロジェクトを推進していく上で発生するあらゆる状況、場面における利害関係者とのネゴシエーションに関して、ネゴシエーションのプロセスを幾つかのフェーズに分け、想定される問題点を理解し、交渉相手との解決策を作成するプロセスについて、ロールプレイを取り入れてワークショップ形式で実践的に学習する。</p>
受講対象者	プロジェクトリーダーまたはプロジェクトメンバーとして、複数のプロジェクトを実施した経験を有する者(プロジェクトマネジメントのレベル4、またはレベル5を目指す者)
受講前提	ネゴシエーションに関する基礎的な知識を有していること
研修方法	ワークショップ
期間	標準日数 3日(クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	プロジェクトにおけるネゴシエーションに関する実践的なスキルを活用し、プロジェクト責任者として、顧客責任者と効果的な合意形成を図れる。

対象スキル項目	関連する知識
ネゴシエーション	-ネゴシエーション 交渉プロセスの把握と実践、効果的な交渉技法の活用と実践、信頼関係の確立、目標の設定、共通利益、論理的思考の実践、問題解決手法の活用と実践

コンプレックスプロジェクトマネジメント

(1コース)

- コンプレックスプロジェクトマネジメント

コース名 研修コースの内容	コンプレックスプロジェクトマネジメント
講座分類	□入門講座 □基礎講座 ■上級講座 □特別講座
対象専門分野	■プロジェクトマネジメント共通 □システム開発 □ITアウトソーシング □ネットワークサービス □ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、システム、デザイン、アプリケーション、体制、契約条件等の要件が複雑なプロジェクト環境において、プロジェクトを成功裡に実施する管理能力に係る知識の修得を目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、先進的、ミッションクリティカル、高パフォーマンスもしくは複数のプラットフォーム構成といった高度なシステム要件、アプリケーション要件が求められるプロジェクトや、短期開発、大規模開発、複雑な協業関係もしくは契約条件、完了条件といった体制面、契約面で複雑な要件が求められるプロジェクトにおいて、基本的プロジェクトマネジメント理論を踏まえた上で更に修得しておくべき注意点、考慮点を、ワークショップ形式の疑似体験などで実践的に学習する。</p>
受講対象者	プロジェクト責任者として、中規模以上または複雑なプロジェクトに関する複数回のプロジェクトマネジメントの経験を有する者(プロジェクトマネジメントのレベル5、またはレベル6を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	ワークショップ
期間	標準日数 3日 (クラスルーム)
研修修了後の スキル修得目標	複雑度の高いプロジェクト環境において、プロジェクト責任者として、プロジェクト全工程におけるプロジェクトマネジメントを実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト統合マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －プロジェクト憲章作成 プロジェクト選定手法、プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクト・スコープ記述書暫定版作成 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクトマネジメント計画書作成 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクト実行の指揮・マネジメント プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS) －プロジェクト作業の監視コントロール プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、アード・バリュー法、専門家の判断 －統合変更管理 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクトの終結 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断
プロジェクト・スコープ・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －スコープ計画 専門家の判断、テンプレート、書式、標準 －スコープ定義 プロダクト分析、代替案識別、専門家の判断、ステークホルダー分析 －WBS作成 ワーク・ブレイクダウン・ストラクチャーのテンプレート、要素分解 －スコープ検証 検査 －スコープ・コントロール 変更管理システム、差異分析、再計画、コンフィグレーション・マネジメント・システム

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト・タイム・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －アクティビティ定義 要素分解、テンプレート、ローリング・ウェーブ計画法、専門家の判断、計画構成要素 －アクティビティ順序設定 プレシデンス・ダイアグラム法(PDM)、アロー・ダイアグラム法(ADM)、スケジュール・ネットワーク・テンプレート、依存関係の決定、リードとラグの適用 －アクティビティ資源見積り 専門家の判断、代替案分析、公開見積りデータ、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、ボトムアップ見積り －アクティビティ所要期間見積り 専門家の判断、類推見積り、係数見積り、三点見積り、予備設定分析 －スケジュール作成 スケジュール・ネットワーク分析、クリティカル・パス法、スケジュール短縮、What-if シナリオ分析、資源平準化、クリティカル・チェーン法、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、カレンダーの適用、リードとラグの調整、スケジュール・モデル －スケジュール・コントロール 進捗報告、スケジュール変更管理システム、パフォーマンス測定、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、差異分析、バー・チャートによるスケジュール対比
プロジェクト・コスト・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －コスト見積り 類推見積り、資源単価、ボトムアップ見積り、係数見積り、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、ベンダー入札の分析、予備設定分析、品質コスト －コストの予算化 コスト集約、予備設定分析、係数見積り、限度額による資金調整 －コスト・コントロール コスト変更管理システム、パフォーマンス測定分析、予測、プロジェクトのパフォーマンス・レビュー、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、差異マネジメント
プロジェクト品質マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －品質計画 費用便益分析、ベンチマーク、実験計画法、品質コスト(COQ)、その他の品質計画ツール －品質保証 品質計画のツールと技法、品質監査、プロセス分析、品質管理のツールと技法 －品質管理 特性要因図、管理図、フローチャート化、ヒストグラム、パレート図、ラン・チャート、散布図、統計的サンプリング、検査、欠陥修正レビュー

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト人的資源マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －人的資源計画 組織図と順位記述書、ネットワーキング、組織論 －プロジェクト・チーム編成 先行任命、交渉、調達、バーチャル・チーム －プロジェクト・チーム育成 一般的なマネジメント・スキル、トレーニング、チーム形成活動、行動規範、コロケーション、表彰と報奨 －プロジェクト・チームのマネジメント 観察と会話、プロジェクトのパフォーマンス評価、コンフリクト・マネジメント、課題ログ
プロジェクト・コミュニケーション・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －コミュニケーション計画 コミュニケーションに対する要求事項の分析、コミュニケーション技術 －情報配布 コミュニケーション・スキル、情報収集検索システム、情報配布手法、教訓プロセス －実績報告 情報提示ツール、パフォーマンス情報の収集・編集、状況レビュー会議、タイム報告システム、コスト報告システム －ステークホルダー・マネジメント コミュニケーション手段、課題ログ
プロジェクト・リスク・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －リスク・マネジメント計画 計画会議と分析 －リスク識別 文書レビュー、情報収集技法(ブレインストーミング、デルファイ法、SWOT分析)、チェックリスト分析、前提条件分析、図解の技法 －定性的リスク分析 リスク発生確率・影響度査定、発生確率・影響度マトリックス、リスク・データ品質査定、リスク区分、リスク緊急度査定 －定量的リスク分析 データ収集・表現技法、定量的リスク分析とモデル化の技法(感度分析、期待金額価値分析、デシジョン・ツリー分析、モンテカルロ法) －リスク対応計画 マイナスのリスク(脅威)に対する戦略(回避、転嫁、軽減)、プラスのリスク(好機)に対する戦略(活用、共有、強化)、脅威・好機両面戦略(受容、コンティンジェンシ予備)、発生時対応戦略 －リスクの監視コントロール リスク再査定、リスク監査、差異・傾向分析、技術的実績の測定、予備設定分析、状況確認ミーティング

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト調達マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －購入・取得計画 内外製分析、専門家の判断、契約タイプ －契約計画 標準書式、専門家の判断 －納入者回答依頼 入札説明会、入札公告、適格納入者リストの作成 －納入者選定 重み付け法、独自見積り、スクリーニング・システム、契約交渉、納入者点数評価システム、専門家の判断、プロポーザル評価技法 －契約管理 契約変更管理システム、購入者主催のパフォーマンス・レビュー、検査及び監査、実績報告、支払システム、クレーム管理、記録マネジメント・システム、情報技術 －契約終結 調達監査、記録マネジメント・システム
ITソリューション設計・開発管理	<ul style="list-style-type: none"> －ソフトウェアエンジニアリング IT標準化手法、開発手法、開発支援ツール技術、プログラミング技術、テスト技法、再利用手法、セキュリティとプライバシー、セキュリティ対策ツールと手法、外部設計、内部設計、オブジェクト指向開発、プログラミング技術、デバッグ技法 －要件定義技法 現行業務分析、新規業務要件の把握、業務要件定義、現行IT環境分析、新規技術要件の把握、技術要件定義、インタビュー技法の活用と実践、要件定義書作成、ニーズの分析と優先順位付け －技術問題解決手法 技術問題解決手法の活用と実践 －最新技術動向 最新ハードウェア技術動向の把握、最新ミドルウェア技術動向の把握、最新プラットフォーム技術動向の把握、最新ネットワーク技術動向の把握、最新データベース技術動向の把握、最新セキュリティ技術動向の把握、最新システム管理技術動向の把握

プロジェクトマネジメント上級（5コース）

- 品質マネジメント
- リスクマネジメント
- ファイナンシャルマネジメント
- 調達マネジメント
- プロジェクトマネジメントの契約管理

コース名	品質マネジメント
研修コースの内容	
講座分類	□入門講座 □基礎講座 ■上級講座 □特別講座
対象専門分野	■プロジェクトマネジメント共通 □システム開発 □ITアウトソーシング □ネットワークサービス □ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、中規模以上あるいは複雑度の高いプロジェクトにおいて、プロジェクトの成果物、プロジェクトのマネジメントそのものに対する顧客の品質要求を満たすための品質マネジメントプロセスの適用技法に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、プロジェクトマネジメントとして常に求められる「品質」に焦点を絞り、品質計画、品質保証、品質コントロール等の品質マネジメントプロセス、品質マネジメントツールと技法、品質マネジメントの成果物といった品質マネジメント全般について学習する。</p> <p>○ 当コースは、講義形式による品質マネジメント理論の確認に加え、いかなる複雑度、難易度のプロジェクトにおいても常に顧客ニーズに合致した高い品質レベルを達成するための実践的な品質マネジメントをワークショップ形式で学習する。</p>
受講対象者	プロジェクト責任者として、中規模以上または複雑なプロジェクトに関する複数回のプロジェクトマネジメントの経験を有する者(プロジェクトマネジメントのレベル5を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義、ワークショップ
期間	標準日数 2日 (クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	品質マネジメントの実践的な知識を活用し、プロジェクト責任者として、要求品質を満足する成果物の提供ができる。

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト品質マネジメント	—品質計画 費用便益分析、ベンチマーク、実験計画法、品質コスト(COQ)、その他の品質計画ツール —品質保証 品質計画のツールと技法、品質監査、プロセス分析、品質管理のツールと技法 —品質管理 特性要因図、管理図、フローチャート化、ヒストグラム、パレート図、ラン・チャート、散布図、統計的サンプリング、検査、欠陥修正レビュー

コース名 研修コースの内容	リスクマネジメント
講座分類	□入門講座 □基礎講座 ■上級講座 □特別講座
対象専門分野	■プロジェクトマネジメント共通 □システム開発 □ITアウトソーシング □ネットワークサービス □ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、中規模以上あるいは複雑度の高いプロジェクトにおけるすべての局面において、プロジェクト目標にプラスやマイナスの影響を与えるであろう不確実な事象や状態をコントロールするためのリスクマネジメントプロセスの適用技法に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、リスクの識別、定量化、対応策の策定、リスク監視とリスクコントロールといったリスクマネジメントの基本プロセスと、フローチャート分析、シミュレーション、デシジョンツリー、コンテンジェンシ計画などのリスクマネジメントツールと技法に関する内容を網羅しており、プロジェクト業務に影響を与える可能性のあるリスクの特定、リスク影響度合いの定量的評価、測定、対応策を含めたリスクマネジメント計画書の策定、状況変化に応じた継続的な対応といった、リスクマネジメントプロセス全般について学習する。</p> <p>○ 当コースは、講義形式によるリスクマネジメント理論の確認に加え、実践的なリスクマネジメントについてワークショップ形式で学習する。</p>
受講対象者	プロジェクト責任者として、中規模以上または複雑なプロジェクトに関する複数回のプロジェクトマネジメントの経験を有する者(プロジェクトマネジメントのレベル5を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	ワークショップ
期間	標準日数 3日 (クラスルーム)
研修修了後の スキル修得目標	リスクマネジメントの実践的知識を活用しプロジェクト責任者として、リスクコントロールを実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト・リスク・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －リスク・マネジメント計画 計画会議と分析 －リスク識別 文書レビュー、情報収集技法(ブレインストーミング、デルファイ法、SWOT分析)、チェックリスト分析、前提条件分析、図解の技法 －定性的リスク分析 リスク発生確率・影響度査定、発生確率・影響度マトリックス、リスク・データ品質査定、リスク区分、リスク緊急度査定 －定量的リスク分析 データ収集・表現技法、定量的リスク分析とモデル化の技法(感度分析、期待金額価値分析、デシジョン・ツリー分析、モンテカルロ法) －リスク対応計画 マイナスのリスク(脅威)に対する戦略(回避、転嫁、軽減)、プラスのリスク(好機)に対する戦略(活用、共有、強化)、脅威・好機両面戦略(受容、コンティンジェンシ予備)、発生時対応戦略 －リスクの監視コントロール リスク再査定、リスク監査、差異・傾向分析、技術的実績の測定、予備設定分析、状況確認ミーティング

コース名	ファイナンシャルマネジメント
研修コースの内容	
講座分類	□入門講座 □基礎講座 ■上級講座 □特別講座
対象専門分野	■プロジェクトマネジメント共通 □システム開発 □ITアウトソーシング □ネットワークサービス □ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、中規模以上あるいは複雑度の高いプロジェクトにおいて、予算、資源、コストの観点でプロジェクトを成功裡に実施するために必要となる財務管理プロセスと技法に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、プロジェクトマネジメントにあたっての財務上の責任、各種財務用語、財務データの導き方、財務分析ツールを活用したプロジェクトの選択と評価、プロジェクトにおけるファイナンシャルマネジメントの事例研究を網羅しており、プロジェクトを承認予算内で完了するために必要なプロジェクトのファイナンシャルマネジメントと、プロジェクトマネジメントへの財務データの活用などを学習する。</p> <p>○ 当コースは、基本的財務知識、ファイナンシャルマネジメントのツール、技法を講義形式で学習するとともに、ワークショップ形式で実践的な学習を行う。また、受講者の財務知識水準の差異やスケジュールを考慮したうえでeラーニング形式での学習も可能である。</p>
受講対象者	プロジェクト責任者として、中規模以上または複雑なプロジェクトに関する複数回のプロジェクトマネジメントの経験を有する者(プロジェクトマネジメントのレベル5を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義、ワークショップ または eラーニング
期間	標準日数 3日(クラスルーム)、または 標準時間 24時間(eラーニング:1日 6時間×4日)
研修修了後のスキル修得目標	ファイナンシャルマネジメントの実践的な知識を活用し、プロジェクト責任者として財務管理プロセスを遂行することができる。

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト・コスト・マネジメント	-コスト見積り 類推見積り、資源単価、ボトムアップ見積り、係数見積り、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、ベンダー入札の分析、予備設定分析、品質コスト -コストの予算化 コスト集約、予備設定分析、係数見積り、限度額による資金調整 -コスト・コントロール コスト変更管理システム、パフォーマンス測定分析、予測、プロジェクトのパフォーマンス・レビュー、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、差異マネジメント

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	調達マネジメント
講座分類	□入門講座 □基礎講座 ■上級講座 □特別講座
対象専門分野	■プロジェクトマネジメント共通 □システム開発 □ITアウトソーシング □ネットワークサービス □ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、中規模以上あるいは複雑度の高いプロジェクトにおいて、プロジェクトニーズに応じた外部からの製品や役務の適切な調達に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>○ 当コースでは調達マネジメントの基本プロセスと、調達マネジメントツールと技法に関する内容を網羅しており、計画策定、引合の実施、発注先との契約、進捗管理、変更管理、契約完了までの一連の調達マネジメントプロセスを学習する。また調達における、例外的状況対応を学習する。</p> <p>○ 当コースは、講義形式による調達マネジメント理論の確認に加え、実践的な調達マネジメントについてワークショップ形式で学習する。また、個別のテーマに分割して、一部をeラーニング形式で学習することも可能である。(例えば、「SOWの書き方」等)</p>
受講対象者	プロジェクト責任者として、中規模以上または複雑なプロジェクトに関する複数回のプロジェクトマネジメントの経験を有する者(プロジェクトマネジメントのレベル5を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義、ワークショップ
期間	標準日数 3日 (クラスルーム)
研修修了後の スキル修得目標	調達マネジメントの実践的な知識を活用し、プロジェクト責任者として調達プロセスを遂行することができる。

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト統合マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －プロジェクト・スコープ記述書暫定版作成 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断
プロジェクト・スコープ・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －スコープ計画 <ul style="list-style-type: none"> 専門家の判断、テンプレート、書式標準 －WBS作成 <ul style="list-style-type: none"> ワーク・ブレイクダウン・ストラクチャーのテンプレート、要素分解 －スコープ・コントロール <ul style="list-style-type: none"> 変更管理システム、差異分析、再計画、コンフィグレーション・マネジメント・システム
プロジェクト・コスト・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －コスト見積り <ul style="list-style-type: none"> 類推見積り、資源単価、ボトムアップ見積り、係数見積り、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、ベンダー入札の分析、予備設定分析、品質コスト －コストの予算化 <ul style="list-style-type: none"> コスト集約、予備設定分析、係数見積り、限度額による資金調整 －コスト・コントロール <ul style="list-style-type: none"> コスト変更管理システム、パフォーマンス測定分析、予測、プロジェクトのパフォーマンス・レビュー、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、差異マネジメント
プロジェクト人的資源マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －プロジェクト・チーム編成 <ul style="list-style-type: none"> 先行任命、交渉、調達、バーチャル・チーム
プロジェクト・コミュニケーション・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －実績報告 <ul style="list-style-type: none"> 情報提示ツール、パフォーマンス情報の収集・編集、状況レビュー会議、タイム報告システム、コスト報告システム

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト調達マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －購入・取得計画 内外製分析、専門家の判断、契約タイプ －契約計画 標準書式、専門家の判断 －納入者回答依頼 入札説明会、入札公告、適格納入者リストの作成 －納入者選定 重み付け法、独自見積り、スクリーニング・システム、契約交渉、納入者点数評価システム、専門家の判断、プロポーザル評価技法 －契約管理 契約変更管理システム、購入者主催のパフォーマンス・レビュー、検査及び監査、実績報告、支払システム、クレーム管理、記録マネジメント・システム、情報技術 －契約終結 調達監査、記録マネジメント・システム

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	プロジェクトマネジメントの契約管理
講座分類	<input type="checkbox"/> 入門講座 <input type="checkbox"/> 基礎講座 <input checked="" type="checkbox"/> 上級講座 <input type="checkbox"/> 特別講座
対象専門分野	<input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトマネジメント共通 <input type="checkbox"/> システム開発 <input type="checkbox"/> ITアウトソーシング <input type="checkbox"/> ネットワークサービス <input type="checkbox"/> ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、お客様とのサービス契約を履行する為に必要となる契約関連知識とプロジェクト管理面での考慮点等について学習することを目的とする。</p> <p>○ 当コースではサービス契約に関する一般知識、お客様との契約管理、取引先との契約管理、プロジェクトにおける契約管理などについて学習する。</p> <p>○ 当コースは、eラーニング形式で学習する事を前提とするが、スキルの定着を促すため、クイズなどを併用する事が望ましい。</p>
受講対象者	プロジェクト責任者として、中規模以上のプロジェクトに関する複数回のプロジェクトマネジメントの経験を有する者(プロジェクトマネジメントのレベル5を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」、「調達マネジメント」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング
期間	標準時間 12時間 (eラーニング:1日6時間×2日)
研修修了後のスキル修得目標	契約管理の実践的な知識を活用し、プロジェクト責任者として、適切な契約プロセス、管理を実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト・コミュニケーション・マネジメント	ー実績報告 情報提示ツール、パフォーマンス情報の収集・編集、状況レビュー会議、タイム報告システム、コスト報告システム
プロジェクト調達マネジメント	ー納入者選定 重み付け法、独自見積り、スクリーニング・システム、契約交渉、納入者点数評価システム、専門家の判断、プロポーザル評価技法 ー契約管理 契約変更管理システム、購入者主催のパフォーマンス・レビュー、検査及び監査、実績報告、支払システム、クレーム管理、記録マネジメント・システム、情報技術 ー契約終結 調達監査、記録マネジメント・システム

最新技術動向（1コース）

- 最新技術動向

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	最新技術動向
講座分類	□入門講座 □基礎講座 □上級講座 ■特別講座
対象専門分野	■プロジェクトマネジメント共通 □システム開発 □ITアウトソーシング □ネットワークサービス □ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、日々変化していくITサービスを取りまく最新の技術動向を理解し、実際のビジネスで応用するための知識の修得を目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、国内外のIT市場規模、動向、現状と将来のIT技術、プラットフォーム、システム管理基盤、データベース、ネットワーク、分散コンピューティングシステム、セキュリティに関わる要素技術動向、アプリケーションに関わる技術動向、ビジネス特許に関わる技術動向、次世代のeビジネスとその発展などを学習する。</p> <p>○ 当コースは、必要に応じた任意のテーマ毎に提供され、受講者は、自らのスキルの維持、向上を図るために定期的または必要に応じてテーマを選択し受講する。</p>
受講対象者	プロジェクト責任者、またはプロジェクトメンバとして、諸技術に関する知識を更新する必要がある者(プロジェクトマネジメントのレベル4, 5または6を目指す者)
受講前提	IT技術に関する基礎知識を有すること
研修方法	講義
期間	標準日数 1日 (クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	最新技術に関する知識を活用し、プロジェクト責任者として、開発、運用、保守などのプロジェクトを実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
ITソリューション設計・開発管理	<ul style="list-style-type: none">一最新技術動向 最新ハードウェア技術動向の把握、最新ミドルウェア技術動向の把握、最新プラットフォーム技術動向の把握、最新ネットワーク技術動向の把握、最新データベース技術動向の把握、最新セキュリティ技術動向の把握、最新システム管理技術動向の把握一最新IT市場動向 国内外のIT市場規模と動向の把握、アプリケーションに関わる技術動向の把握、ビジネス特許に関わる技術動向の把握、次世代のeビジネスとその発展の把握

プロジェクトマネジメント最新動向

(1コース)

- プロジェクトマネジメント最新動向

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	プロジェクトマネジメント最新動向
講座分類	<input type="checkbox"/> 入門講座 <input type="checkbox"/> 基礎講座 <input type="checkbox"/> 上級講座 <input checked="" type="checkbox"/> 特別講座
対象専門分野	<input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトマネジメント共通 <input type="checkbox"/> システム開発 <input type="checkbox"/> ITアウトソーシング <input type="checkbox"/> ネットワークサービス <input type="checkbox"/> ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、常に質の高いプロジェクトマネジメントを継続して実施するために、顧客のIT環境、ビジネス環境に最も適した手法を適用するためのプロジェクトマネジメントの最新動向に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、プロジェクトマネジメントについての最新ニュースやトピックス、先進的な技術領域、ビジネス領域に対するプロジェクトマネジメントの考え方、プロジェクトマネジメントが顧客企業経営者から今何を求められているか、更には最新のプロジェクトマネジメント事例研究などを学習する。</p> <p>○ 当コースは、毎年一回程度を目安にeラーニング形式で学習する。</p>
受講対象者	プロジェクトメンバまたはプロジェクト責任者として、プロジェクトマネジメントの最新情報を実際のプロジェクトに活用していく必要のある者(プロジェクトマネジメントのレベル4、5または6を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング
期間	標準時間 3時間 (1日6時間×0.5日)
研修修了後のスキル修得目標	プロジェクトマネジメントに関する最新情報を活用して、プロジェクト責任者として、プロジェクトの全工程を成功裡に実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト統合マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －プロジェクト憲章作成 プロジェクト選定手法、プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクト・スコープ記述書暫定版作成 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクトマネジメント計画書作成 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクト実行の指揮・マネジメント プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS) －プロジェクト作業の監視コントロール プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、アード・バリュー法、専門家の判断 －統合変更管理 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクト終結 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断
プロジェクト・スコープ・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －スコープ計画 専門家の判断、テンプレート、書式標準 －スコープ定義 プロダクト分析、代替案識別、専門家の判断、ステークホルダー分析 －WBS作成 ワーク・ブレイクダウン・ストラクチャーのテンプレート、要素分解 －スコープ検証 検査 －スコープ・コントロール 変更管理システム、差異分析、再計画、コンフィグレーション・マネジメント・システム

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト・タイム・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －アクティビティ定義 要素分解、テンプレート、ローリング・ウェーブ計画法、専門家の判断、計画構成要素 －アクティビティ順序設定 プレシデンス・ダイアグラム法(PDM)、アロー・ダイアグラム法(ADM)、スケジュール・ネットワーク・テンプレート、依存関係の決定、リードとラグの適用 －アクティビティ資源見積り 専門家の判断、代替案分析、公開見積りデータ、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、ボトムアップ見積り －アクティビティ所要期間見積り 専門家の判断、類推見積り、係数見積り、三点見積り、予備設定分析 －スケジュール作成 スケジュール・ネットワーク分析、クリティカル・パス法、スケジュール短縮、What-If シナリオ分析、資源平準化、クリティカル・チェーン法、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、カレンダーの適用、リードとラグの調整、スケジュール・モデル －スケジュール・コントロール 進捗報告、スケジュール変更管理システム、パフォーマンス測定、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、差異分析、バー・チャートによるスケジュール対比
プロジェクト・コスト・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －コスト見積り 類推見積り、資源単価、ボトムアップ見積り、係数見積り、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、ベンダー入札の分析、予備設定分析、品質コスト －コストの予算化 コスト集約、予備設定分析、係数見積り、限度額による資金調整 －コスト・コントロール コスト変更管理システム、パフォーマンス測定分析、予測、プロジェクトのパフォーマンス・レビュー、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、差異マネジメント
プロジェクト品質マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －品質計画 費用便益分析、ベンチマーク、実験計画法、品質コスト(COQ)、その他の品質計画ツール －品質保証 品質計画のツールと技法、品質監査、プロセス分析、品質管理のツールと技法 －品質管理 特性要因図、管理図、フローチャート化、ヒストグラム、パレート図、ラン・チャート、散布図、統計的サンプリング、検査、欠陥修正レビュー

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト人的資源マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －人的資源計画 組織図と順位記述書、ネットワーキング、組織論 －プロジェクト・チーム編成 先行任命、交渉、調達、バーチャル・チーム －プロジェクト・チーム育成 一般的なマネジメント・スキル、トレーニング、チーム形成活動、行動規範、コロケーション、表彰と報奨 －プロジェクト・チームのマネジメント 観察と会話、プロジェクトのパフォーマンス評価、コンフリクト・マネジメント、課題ログ
プロジェクト・コミュニケーション・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －コミュニケーション計画 コミュニケーションに対する要求事項の分析、コミュニケーション技術 －情報配布 コミュニケーション・スキル、情報収集検索システム、情報配布手法、教訓プロセス －実績報告 情報提示ツール、パフォーマンス情報の収集・編集、状況レビュー会議、タイム報告システム、コスト報告システム －ステークホルダー・マネジメント コミュニケーション手段、課題ログ
プロジェクト・リスク・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －リスク・マネジメント計画 計画会議と分析 －リスク識別 文書レビュー、情報収集技法(ブレインストーミング、デルファイ法、SWOT分析)、チェックリスト分析、前提条件分析、図解の技法 －定性的リスク分析 リスク発生確率・影響度査定、発生確率・影響度マトリックス、リスク・データ品質査定、リスク区分、リスク緊急度査定 －定量的リスク分析 データ収集・表現技法、定量的リスク分析とモデル化の技法(感度分析、期待金額価値分析、デシジョン・ツリー分析、モンテカルロ法) －リスク対応計画 マイナスのリスク(脅威)に対する戦略(回避、転嫁、軽減)、プラスのリスク(好機)に対する戦略(活用、共有、強化)、脅威・好機両面戦略(受容、コンティンジェンシ予備)、発生時対応戦略 －リスクの監視コントロール リスク再査定、リスク監査、差異・傾向分析、技術的実績の測定、予備設定分析、状況確認ミーティング

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト調達マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －購入・取得計画 内外製分析、専門家の判断、契約タイプ －契約計画 標準書式、専門家の判断 －納入者回答依頼 入札説明会、入札公告、適格納入者リストの作成 －納入者選定 重み付け法、独自見積り、スクリーニング・システム、契約交渉、納入者点数評価システム、専門家の判断、プロポーザル評価技法 －契約管理 契約変更管理システム、購入者主催のパフォーマンス・レビュー、検査及び監査、実績報告、支払システム、クレーム管理、記録マネジメント・システム、情報技術 －契約終結 調達監査、記録マネジメント・システム

最新ビジネス動向（1コース）

- 最新ビジネス動向

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	最新ビジネス動向
講座分類	□入門講座 □基礎講座 □上級講座 ■特別講座
対象専門分野	■プロジェクトマネジメント共通 □システム開発 □ITアウトソーシング □ネットワークサービス □ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、日々変化していくビジネスの最新動向に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、主要な業界の経営課題や最新動向、トピックス、国内外のIT市場の動向、主要な技術動向等のテーマ毎に提供され、受講者は、自らのスキルの維持、向上を図るために定期的または必要に応じてテーマを選択し受講する。</p>
受講対象者	プロジェクト責任者として、担当するプロジェクトに関わる顧客の経営環境等を把握するために、ビジネス動向に関する知識を更新する必要がある者（プロジェクトマネジメントのレベル4, 5または6を目指す者）
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義、またはeラーニング
期間	標準日数 0.5日（クラスルーム）、または標準時間 3時間（eラーニング 1日 3時間×0.5日）
研修修了後の スキル修得目標	ビジネスの最新動向に関する知識を活用し、プロジェクト責任者として、顧客の経営課題を理解し、プロジェクトを遂行することができる。

対象スキル項目	関連する知識
ITソリューション設計・開発管理	—最新IT市場動向 国内外のIT市場規模と動向の把握、アプリケーションに関わる技術動向の把握、ビジネス特許に関わる技術動向の把握、次世代のeビジネスとその発展の把握

インダストリアプリケーション動向

(1コース)

- インダストリアプリケーション動向

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	インダストリアプリケーション動向
講座分類	<input type="checkbox"/> 入門講座 <input type="checkbox"/> 基礎講座 <input type="checkbox"/> 上級講座 <input checked="" type="checkbox"/> 特別講座
対象専門分野	<input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトマネジメント共通 <input type="checkbox"/> システム開発 <input type="checkbox"/> ITアウトソーシング <input type="checkbox"/> ネットワークサービス <input type="checkbox"/> ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、日々変化していくインダストリアプリケーションに関する知識を最新に保つために、各インダストリにおける最新の動向や、現在注目を集めているアプリケーション、ソリューションに関する知識の修得を目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、対象とするインダストリ、またはアプリケーション、ソリューションのテーマ毎に提供され、受講者は、自らのスキルの維持、向上を図るために定期的または必要に応じてテーマを選択し受講する。</p> <p>○ 当コースはeラーニング形式による提供も可能であるが、講義形式によってアプリケーションの実演などを行うことが望ましい。</p>
受講対象者	プロジェクト責任者として、現在関わりのある業界や、今後関係する業界に関する知識、またその業界で使用されるアプリケーションなどに関する知識を更新する必要がある者(プロジェクトマネジメントのレベル4、5または6を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義、またはeラーニング
期間	標準日数 2日(クラスルーム)、または標準時間 12時間 (eラーニング 1日 6時間×2日)
研修修了後のスキル修得目標	インダストリアプリケーションに関する知識を活用し、プロジェクト責任者として、開発、運用、保守などのプロジェクトを実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
業務分析	ーインダストリ知識 インダストリ共通アプリケーションに関する知識の活用、インダストリ固有アプリケーションに関する知識の活用、インダストリビジネス動向の把握、インダストリ技術動向の把握、インダストリ競合状況の把握、インダストリ用語の把握と活用、関連法規の把握と活用、インダストリ別事業環境の把握と活用、インダストリ別ビジネス慣行の把握と活用、インダストリ固有業務内容の把握と活用

コミュニティ活動（1コース）

- コミュニティ活動

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	コミュニティ活動
講座分類	□入門講座 □基礎講座 □上級講座 ■特別講座
対象専門分野	■プロジェクトマネジメント共通 □システム開発 □ITアウトソーシング □ネットワークサービス □ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>コミュニティ活動は、いわゆる研修とは異なり、社内組織上のラインにとらわれずに、プロフェッショナル同士が自らのスキルを切磋琢磨し、後進育成にも貢献していく社内、社外での諸活動をいう。コミュニティ活動には、社外のものとしては学会や各種団体(任意も含めて)があり、社内のもとしては社内プロフェッショナル認定制度などで認定を受けたなどの者からなる枠組みがある。これらコミュニティは、同一職種で構成されることが基本となる</p> <p>○ ハイレベルのスキルを持つ人材は、研修という枠組みで教えられるという段階を超え、コミュニティ活動を通し、他のハイレベルのプロフェッショナルとの情報交換やディスカッションを通じて研鑽を重ねる。</p> <p>○ 後進育成においても、ハイレベルのスキルに基づく論文発表や講演を通じた貢献を図る。また、特に社内のコミュニティ活動を通しては、人事、教育訓練制度の設計、構築、実行をリードし、現場のプロの立場でビジネス戦略と結びついた人材育成戦略の実現に貢献する。</p>
受講対象者	—
受講前提	—
研修方法	—
期間	—
研修修了後の スキル修得目標	—

プロジェクトマネジメント研修コースの内容

<専門分野別選択>

プロジェクトマネジメント方法論(システム開発) (1コース)

()内は対応する専門分野

- プロジェクトマネジメント方法論(システム開発)

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	プロジェクトマネジメント方法論(システム開発)
講座分類	<input type="checkbox"/> 入門講座 <input checked="" type="checkbox"/> 基礎講座 <input type="checkbox"/> 上級講座 <input type="checkbox"/> 特別講座
対象専門分野	<input type="checkbox"/> プロジェクトマネジメント共通 <input checked="" type="checkbox"/> システム開発 <input type="checkbox"/> ITアウトソーシング <input type="checkbox"/> ネットワークサービス <input type="checkbox"/> ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、システム開発、アプリケーション開発、システムインテグレーションのプロジェクトマネジメントに必要となる、情報システム開発の方法論に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>○ 当コースは、ウォーターフォールモデル、スパイラルモデル、プロトタイプモデルなどのシステム開発ライフサイクルモデル、POA(Process Oriented Approach)、DOA(Data Oriented Approach)、オブジェクト指向開発などの開発方法論、開発言語、ツール、見積手法等に関する内容を網羅しており情報システム開発プロジェクトにおいて適用するソフトウェアエンジニアリングの基礎的な理論とツール、技法などを学習する。</p> <p>○ コース前半は、情報システム開発方法論に関する基礎知識をeラーニング形式で学習する。後半は、実際のプロジェクトへの適用方法について講義形式とワークショップ形式で適用事例を交えて実践的に学習する。</p>
受講対象者	システム開発等に関するプロジェクトメンバとして、複数回のプロジェクトに参加した経験を有する者(プロジェクトマネジメント(専門分野:システム開発)のレベル4を目指す者)
受講前提	「システム設計」「システム構築」「システム保守/運用」「プロジェクトマネジメント基礎」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング、講義、ワークショップ
期間	前半:標準時間 18時間 (eラーニング 1日 6時間×3日)、後半:標準日数 2日 (クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	ソフトウェアエンジニアリングの技法を活用しシステム開発方針を決定し、プロジェクト責任者として、ITソリューションの設計、開発管理をリードして、プロジェクトを実施できる。

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト統合マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －プロジェクト憲章作成 プロジェクト選定手法、プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクト・スコープ記述書暫定版作成 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクトマネジメント計画書作成 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクト実行の指揮・マネジメント プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS) －プロジェクト作業の監視コントロール プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、アード・バリュー法、専門家の判断 －統合変更管理 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクト終結 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断
ITソリューション設計・開発管理	<ul style="list-style-type: none"> －ソフトウェアエンジニアリング IT標準化手法、開発手法、開発支援ツール技術、プログラミング技術、テスト技法、再利用手法、セキュリティとプライバシー、セキュリティ対策ツールと手法、外部設計、内部設計、オブジェクト指向開発、プログラミング技術、デバッグ技法 －要件定義技法 現行業務分析、新規業務要件の把握、業務要件定義、現行IT環境分析、新規技術要件の把握、技術要件定義、インタビュー技法の活用と実践、要件定義書作成、ニーズの分析と優先順位付け

DOA 構造化手法 (1コース)

()内は対応する専門分野

- DOA 構造化手法(システム開発)

コース名 研修コースの内容	DOA 構造化手法
講座分類	□入門講座 ■基礎講座 □上級講座 □特別講座
対象専門分野	□プロジェクトマネジメント共通 ■システム開発 □ITアウトソーシング □ネットワークサービス □ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、システム開発、アプリケーション開発、システムインテグレーションの設計時に必要となる、DOA 構造化手法に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>○ 適用業務開発の要件定義、設計を進める上で必須となる DOA について学習し、また DOA を構成する手法について理解する事を目的とする。</p> <p>○ コース前半は、情報システム開発方法論に関する基礎知識をeラーニング形式で学習する。後半は、実際のプロジェクトへの適用方法について講義形式とワークショップ形式で適用事例を交えて実践的に学習する。</p>
受講対象者	システム開発等に関するプロジェクト責任者として、複数回のプロジェクトに参加した経験を有する者(プロジェクトマネジメント(専門分野:システム開発)のレベル5を目指す者)
受講前提	「システム設計」「システム構築」「システム保守/運用」「プロジェクトマネジメント基礎」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング
期間	前半:標準時間 12時間 (eラーニング 1日 6時間×2日)
研修修了後の スキル修得目標	DOA 構造化手法を活用しプロジェクト責任者として、要件定義、設計の開発局面をリードして、プロジェクトを実施できる。

対象スキル項目	関連する知識
ITソリューション設計・開発管理	一 要件定義技法 現行業務分析、新規業務要件の把握、業務要件定義、現行IT環境分析、新規技術要件の把握、技術要件定義、インタビュー技法の活用と実践、要件定義書作成、ニーズの分析と優先順位付け

プロジェクトマネジメント方法論(ネットワークサービス)

(1コース)

()内は対応する専門分野

- プロジェクトマネジメント方法論(ネットワークサービス)

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	プロジェクトマネジメント方法論(ネットワークサービス)
講座分類	<input type="checkbox"/> 入門講座 <input checked="" type="checkbox"/> 基礎講座 <input type="checkbox"/> 上級講座 <input type="checkbox"/> 特別講座
対象専門分野	<input type="checkbox"/> プロジェクトマネジメント共通 <input type="checkbox"/> システム開発 <input type="checkbox"/> ITアウトソーシング <input checked="" type="checkbox"/> ネットワークサービス <input type="checkbox"/> ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、ネットワークサービスのプロジェクトマネジメントに必要となる、ネットワークサービスの方法論に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、ネットワークシステムの主要技術と機能、ネットワークシステムの設計、構築、運用の各フェーズにおける主要業務プロセスと手法、ネットワークサービスプロジェクトの契約形態別(支援型、請負型)特徴と契約管理上の考慮点などを学習する。</p> <p>○ 当コースは、実際のプロジェクトへの適用方法と各種考慮点について講義形式とワークショップ形式で適用事例を交えて実践的に学習する。</p>
受講対象者	システム開発等に関するプロジェクトメンバとして、複数回のプロジェクトに参画した経験を有する者(プロジェクトマネジメント(専門分野:ネットワークサービス)のレベル4を目指す者)
受講前提	「システム設計」「システム構築」「システム保守／運用」「プロジェクトマネジメント基礎」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義、ワークショップ
期間	標準日数 2日 (クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	ネットワークシステムの技術的知識と方法論を活用し、ネットワークプロジェクト責任者として、通信環境の設計、構築、運用管理をリードして、プロジェクトを実施できる。

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト統合マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －プロジェクト憲章作成 プロジェクト選定手法、プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクト・スコープ記述書暫定版作成 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクトマネジメント計画書作成 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクト実行の指揮・マネジメント プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS) －プロジェクト作業の監視コントロール プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、アード・バリュー法、専門家の判断 －統合変更管理 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクト終結 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断
通信環境設計・運用管理	<ul style="list-style-type: none"> －通信業界動向の把握 －ネットワーク機器関連知識の活用と実践 －ネットワーク管理技術の活用と実践 －ネットワークプロトコル関連知識の活用と実践 －ネットワーク技術の理解と活用 プロトコルと伝送制御、符号化と伝送、ネットワーク関連法規、ネットワークセキュリティ、通信機器、インターネット、ネットワークソフト、ATM (Asynchronous Transfer Mode)、フレームリレーやLAN、WANなど回線に関する技術、TCP/IP －要件定義技法 現行業務分析、新規業務要件の把握、業務要件定義、現行IT環境分析、新規技術要件の把握、技術要件定義、インタビュー技法の活用と実践、要件定義書作成、ニーズの分析と優先順位付け －ネットワークシステムの実装技術 ネットワークプロトコル、電気通信サービス、ネットワーク機器と装置、ネットワークサービス、イントラネットやエクストラネット －ネットワークシステムの運用、保守、管理 ユーザ対応、保守、更新の方針と計画作成、保守、更新の実施、バックアップとデータ回復、ネットワークシステム構成管理、ネットワークシステ

対象スキル項目	関連する知識
	<p>ムの監視、システムの性能分析、セキュリティ侵害の分析と対応、障害の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> －ネットワークシステムの評価 <ul style="list-style-type: none"> モニタリング手法の活用と実践、トラフィック計測と分析、シミュレーション手法の活用と実践、性能解析手法の活用と実践 －ネットワークモデリング技法 <ul style="list-style-type: none"> レイヤ定義、プロトコル定義 －ネットワーク標準 <ul style="list-style-type: none"> ネットワーク標準の把握と適用 －技術問題解決手法 <ul style="list-style-type: none"> 技術問題解決手法の活用と実践 －技術検証手法の活用と実践 <ul style="list-style-type: none"> プロトタイピング、シミュレーション

ネットワークプロジェクトマネジメント事例

(1コース)

()内は対応する専門分野

- ネットワークプロジェクトマネジメント事例(ネットワークサービス)

コース名	ネットワークプロジェクトマネジメント事例
研修コースの内容	
講座分類	□入門講座 □基礎講座 ■上級講座 □特別講座
対象専門分野	□プロジェクトマネジメント共通 □システム開発 □ITアウトソーシング ■ネットワークサービス □ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、ネットワークサービスに関連するプロジェクトマネジメントの事例を通じてネットワークプロジェクトを成功裏に導く為の考慮事項を学習する事を目的とする。</p> <p>○ ネットワークプロジェクトの構築、管理の事例をテーマとしてプロジェクトの成功要因、ネットワークプロジェクト特有の考慮事項などの知識を修得する。</p>
受講対象者	ネットワーク構築に関するプロジェクト責任者として、複数回のプロジェクトに参画した経験を有する者(プロジェクトマネジメント(専門分野:ネットワークサービス)のレベル5を目指す者)
受講前提	「ネットワークサービス方法論」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング
期間	標準時間 3時間 (eラーニング:1日6時間×0.5日)
研修修了後のスキル修得目標	ネットワークサービス構築の実践的知識を活用し、ネットワークプロジェクト責任者として、ネットワークプロジェクトを実施できる。

対象スキル項目	関連する知識
通信環境設計・運用管理	<ul style="list-style-type: none"> －通信業界動向の把握 －ネットワーク管理技術の活用と実践 －ネットワークシステムの運用、保守、管理 <ul style="list-style-type: none"> ユーザ対応、保守更新の方針と計画作成、保守更新の実施、バックアップとデータ回復、ネットワークシステム構成管理、ネットワークシステムの監視、システムの性能分析、セキュリティ侵害の分析と対応、障害の分析 －ネットワークシステムの評価 <ul style="list-style-type: none"> モニタリング手法の活用と実践、トラフィック計測と分析、シミュレーション手法の活用と実践、性能解析手法の活用と実践 －ネットワーク標準 <ul style="list-style-type: none"> ネットワーク標準の把握と適用 －技術問題解決手法 <ul style="list-style-type: none"> 技術問題解決手法の活用と実践

プロジェクトマネジメント方法論(ソフトウェア製品開発)

(1コース)

()内は対応する専門分野

- プロジェクトマネジメント方法論(ソフトウェア製品開発)

コース名 研修コースの内容	プロジェクトマネジメント方法論(ソフトウェア製品開発)
講座分類	□入門講座 ■基礎講座 □上級講座 □特別講座
対象専門分野	□プロジェクトマネジメント共通 □システム開発 □ITアウトソーシング □ネットワークサービス ■ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、ソフトウェア製品開発のプロジェクトマネジメントに必要となる、ソフトウェア製品開発の方法論に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、IPD(Integrated Product Development)方法論の管理プロセス、ツール、技法、知的資産、特許、ソフトウェア製品関連知識等関する内容を網羅しており、ソフトウェア製品開発の計画、要件定義、設計、開発、テスト、導入等一連の局面における適用方法を学習する。</p> <p>○ 当コースは、IPD 手法によるプロジェクトマネジメント理論を講義形式で学習することに加え、適用方法、適用事例を中心にワークショップ形式で学習する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品設計、開発に関するプロジェクトメンバとして、複数回のプロジェクトに参画した経験を有する者(プロジェクトマネジメント(専門分野:ソフトウェア開発)のレベル4を目指す者)
受講前提	「システム設計」「システム構築」「システム保守/運用」「プロジェクトマネジメント基礎」を修了していること
研修方法	講義、ワークショップ
期間	標準日数 5日 (クラスルーム)
研修修了後の スキル修得目標	ソフトウェア製品開発方法論を活用し、プロジェクト責任者として、新規ソフトウェア、既存ソフトウェアの設計、開発管理をリードして、プロジェクトを実施できる。

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト統合マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －プロジェクト憲章作成 プロジェクト選定手法、プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクト・スコープ記述書暫定版作成 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクトマネジメント計画書作成 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクト実行の指揮・マネジメント プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS) －プロジェクト作業の監視コントロール プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、アード・バリュウ法、専門家の判断 －統合変更管理 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクト終結 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断
新規ソフトウェア開発・既存ソフトウェア改良	<ul style="list-style-type: none"> －ソフトウェア開発テクニックの活用と実践 －顧客環境管理 －ソフトウェア製品、パッケージソフトウェア関連知識の活用と実践 －ソフトウェアエンジニアリング IT標準化手法、開発手法、開発支援ツール技術、プログラミング技術、テスト技法、再利用手法、セキュリティとプライバシー、セキュリティ対策ツールと手法、外部設計、内部設計、オブジェクト指向開発、プログラミング技術、デバッグ技法 －要件定義技法 現行業務分析、新規業務要件の把握、業務要件定義、現行IT環境分析、新規技術要件の把握、技術要件定義、インタビュー技法の活用と実践、要件定義書作成、ニーズの分析と優先順位付け －技術問題解決手法 技術問題解決手法の活用と実践 －知的資産の管理と運用 知的資産のデータベース化(付加価値、構造化、共有化)、知的資産の活用、知的資産の維持と管理、効果の把握と改善の実施、ビジネス特許

ソフトウェア製品開発プロジェクトマネジメント

(1コース)

()内は対応する専門分野

- ソフトウェア製品開発プロジェクトマネジメント
(ソフトウェア製品開発)

コース名 研修コースの内容	ソフトウェア製品開発プロジェクトマネジメント
講座分類	□入門講座 □基礎講座 ■上級講座 □特別講座
対象専門分野	□プロジェクトマネジメント共通 □システム開発 □ITアウトソーシング □ネットワークサービス ■ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、ソフトウェア製品開発のプロジェクトマネジメントに必要となる、ソフトウェア製品開発の方法論について実践的な知識の修得を目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、IPD(Integrated Product Development)方法論に基づくソフトウェア製品開発管理プロセス、ツール、技法、等に関する知識を活用し、チームとしてソフトウェア製品開発の計画、要件定義、設計、開発、テスト、導入等一連の局面におけるプロセスと製品の整合性を保つ活動などについて学習する。またIPDプロセスにおけるプロジェクトマネジメントの役割と権限について理解し、懸案事項や問題解決にあたりリーダーシップを発揮できる能力を身につける。</p> <p>○ 当コースは、IPD 手法によるプロジェクトマネジメント理論を講義形式で学習することに加え、適用方法、適用事例を中心にワークショップ形式で学習する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品設計、開発に関するプロジェクト責任者として、複数回のプロジェクトに参画した経験を有する者(プロジェクトマネジメント(専門分野:ソフトウェア製品開発)のレベル5を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント方法論(ソフトウェア製品開発)」を修了していること
研修方法	講義、ワークショップ
期間	標準日数 5日 (クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	ソフトウェア製品開発方法論を活用し、プロジェクト責任者として、新規ソフトウェア、既存ソフトウェアの設計、開発管理をリードして、プロジェクトを実施できる。

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト統合マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －プロジェクトマネジメント計画書作成 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －統合変更管理 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断
プロジェクト・スコープ・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －スコープ計画 専門家の判断、テンプレート、書式標準 －スコープ定義 プロダクト分析、代替案識別、専門家の判断、ステークホルダー分析 －WBS作成 ワーク・ブレイクダウン・ストラクチャーのテンプレート、要素分解 －スコープ検証 検査 －スコープ・コントロール 変更管理システム、差異分析、再計画、コンフィグレーション・マネジメント・システム
プロジェクト・タイム・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －アクティビティ定義 要素分解、テンプレート、ローリング・ウェーブ計画法、専門家の判断、計画構成要素 －アクティビティ資源見積り 専門家の判断、代替案分析、公開見積りデータ、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、ボトムアップ見積り －アクティビティ所要期間見積り 専門家の判断、類推見積り、係数見積り、三点見積り、予備設定分析 －スケジュール作成 スケジュール・ネットワーク分析、クリティカル・パス法、スケジュール短縮、What-If シナリオ分析、資源平準化、クリティカル・チェーン法、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、カレンダーの適用、リードとラグの調整、スケジュール・モデル －スケジュール・コントロール 進捗報告、スケジュール変更管理システム、パフォーマンス測定、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、差異分析、バー・チャートによるスケジュール対比

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト・コスト・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －コスト見積り 類推見積り、資源単価、ボトムアップ見積り、係数見積り、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、ベンダー入札の分析、予備設定分析、品質コスト －コストの予算化 コスト集約、予備設定分析、係数見積り、限度額による資金調整 －コスト・コントロール コスト変更管理システム、パフォーマンス測定分析、予測、プロジェクトのパフォーマンス・レビュー、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、差異マネジメント
プロジェクト・リスク・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －リスク識別 文書レビュー、情報収集技法(ブレインストーミング、デルファイ法、SWOT分析)、チェックリスト分析、前提条件分析、図解の技法 －定量的リスク分析 データ収集・表現技法、定量的リスク分析とモデル化の技法(感度分析、期待金額価値分析、デシジョン・ツリー分析、モンテカルロ法) －リスク対応計画 マイナスのリスク(脅威)に対する戦略(回避、転嫁、軽減)、プラスのリスク(好機)に対する戦略(活用、共有、強化)、脅威・好機両面戦略(受容、コンティンジェンシ予備)、発生時対応戦略 －リスクの監視コントロール リスク再査定、リスク監査、差異・傾向分析、技術的実績の測定、予備設定分析、状況確認ミーティング
新規ソフトウェア開発・既存ソフトウェア改良	<ul style="list-style-type: none"> －ソフトウェア開発テクニックの活用と実践 －顧客環境管理 －ソフトウェア製品、パッケージソフトウェア関連知識の活用と実践 －ソフトウェアエンジニアリング IT標準化手法、開発手法、開発支援ツール技術、プログラミング技術、テスト技法、再利用手法、セキュリティとプライバシー、セキュリティ対策ツールと手法、外部設計、内部設計、オブジェクト指向開発、デバッグ技法 －要件定義技法 現行業務分析、新規業務要件の把握、業務要件定義、現行IT環境分析、新規技術要件の把握、技術要件定義、インタビュー技法の活用と実践、要件定義書作成、ニーズの分析と優先順位付け －技術問題解決手法 技術問題解決手法の活用と実践 －知的資産の管理と活用 知的資産のデータベース化(付加価値、構造化、共有化)、知的資産の活用、知的資産の維持と管理、効果の把握と改善の実施、ビジネスモデル特許

アウトソーシングプロジェクトマネジメントのための システム運用管理方法論(1コース)

()内は対応する専門分野

- アウトソーシングプロジェクトマネジメントのためのシステム運用管理方法論
(ITアウトソーシング)

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	アウトソーシングプロジェクトマネジメントのためのシステム運用管理方法論
講座分類	<input type="checkbox"/> 入門講座 <input type="checkbox"/> 基礎講座 <input checked="" type="checkbox"/> 上級講座 <input type="checkbox"/> 特別講座
対象専門分野	<input type="checkbox"/> プロジェクトマネジメント共通 <input type="checkbox"/> システム開発 <input type="checkbox"/> ITアウトソーシング <input type="checkbox"/> ネットワークサービス <input checked="" type="checkbox"/> ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、アウトソーシングのプロジェクトマネジメントに必要となる、情報システム運用管理方法論に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、システム運用管理方法論に関する知識領域を網羅しており、情報システムの計画、管理やシステム開発からサービス水準管理、資源管理、資産管理、運用管理、報告管理等に至るまでの運用全般について学習する。</p> <p>○ 当コースは、適用方法、適用事例を中心にワークショップ形式で学習する。</p>
受講対象者	プロジェクト責任者として、中規模以上で複雑なプロジェクトに関する複数回のプロジェクトマネジメントの経験を有する者(プロジェクトマネジメント(専門分野:ITアウトソーシング)のレベル6を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義、ワークショップ
期間	標準日数 3日 (クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	情報システム管理メソッドを活用し、アウトソーシングプロジェクトのプロジェクト責任者として、アウトソーシング関連プロジェクトを実施できる。

対象スキル項目	関連する知識
情報システム管理	<ul style="list-style-type: none"> －システム管理体系 組織と役割の設定、業務フローの策定、業務標準の策定、管理体制の確立 －ユーザ部門との関係管理 ユーザおよび経営者の要望把握 －情報システム計画 システム化戦略の策定、システム化計画の策定 －システム開発 システム開発計画の策定と実施 －本番システムへの適用 システム移行計画の策定と実施 －情報サービスの支援 品質管理 －情報サービスの提供 システム運用 －情報資源の管理 情報システム資産計画策定と管理 －要件定義技法 現行業務分析、新規業務要件の把握、業務要件定義、現行IT環境分析、新規技術要件の把握、技術要件定義、インタビュー技法の活用と実践、要件定義書作成、ニーズの分析と優先順位付け －技術問題解決手法 技術問題解決手法の活用と実践 －最新技術動向 最新ハードウェア技術動向の把握、最新ミドルウェア技術動向の把握、最新プラットフォーム技術動向の把握、最新ネットワーク技術動向の把握、最新データベース技術動向の把握、最新セキュリティ技術動向の把握、最新システム管理技術動向の把握

アウトソーシングビジネスのプロジェクトマネジメント (3コース)

()内は対応する専門分野

- アウトソーシングプロジェクトマネジメント概説(ITアウトソーシング)
- アウトソーシングプロジェクトマネジメント実践(ITアウトソーシング)
- アウトソーシングプロジェクトマネジメントのための会計・経営管理概説
(ITアウトソーシング)

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	アウトソーシングプロジェクトマネジメント概説
講座分類	<input type="checkbox"/> 入門講座 <input type="checkbox"/> 基礎講座 <input checked="" type="checkbox"/> 上級講座 <input type="checkbox"/> 特別講座
対象専門分野	<input type="checkbox"/> プロジェクトマネジメント共通 <input type="checkbox"/> システム開発 <input checked="" type="checkbox"/> ITアウトソーシング <input type="checkbox"/> ネットワークサービス <input type="checkbox"/> ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、アウトソーシングプロジェクトを専門に担当するために、理解しておくべきアウトソーシングビジネスにおけるプロジェクトマネジメントの概要と特徴に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、アウトソーシングビジネスの概要、契約形態、アウトソーシングプロジェクトマネジメント職種の責任と役割、アウトソーシングプロジェクトマネジメントのプロセス、サービス水準管理(SLA : Service Level Agreement)、資源管理、資産管理、運用管理、報告管理といったビジネス管理項目等の内容を網羅しており、アウトソーシングプロジェクトを成功裏に導くためのビジネスの理解を深め各種考慮点について学習する。</p> <p>○ 当コースは、アウトソーシングプロジェクトマネジメントに関する広範な要素を講義形式およびワークショップ形式で大局的に学習する。</p>
受講対象者	<p>プロジェクト責任者として、中規模以上で複雑なプロジェクトに関する複数回のプロジェクトマネジメントの経験、実績を有する者(プロジェクトマネジメント(専門分野:ITアウトソーシング)のレベル6を目指す者)</p> <p>なお、プロジェクトメンバとしてアウトソーシングの実務経験を有することが望ましい</p>
受講前提	<p>「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること</p>
研修方法	<p>講義、ワークショップ</p>
期間	<p>標準日数 2日 (クラスルーム)</p>
研修修了後のスキル修得目標	<p>アウトソーシングビジネスの概要と基本的知識を活用し、アウトソーシングプロジェクトのプロジェクト責任者として、顧客企業にとって極めて戦略的な意味を持つアウトソーシングプロジェクトを実施することができる。</p>

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト統合マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －プロジェクト憲章作成 プロジェクト選定手法、プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクト・スコープ記述書暫定版作成 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクトマネジメント計画書作成 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －統合変更管理 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断
プロジェクト・スコープ・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －スコープ計画 専門家の判断、テンプレート、書式標準 －スコープ定義 プロダクト分析、代替案識別、専門家の判断、ステークホルダー分析 －WBS作成 ワーク・ブレイクダウン・ストラクチャーのテンプレート、要素分解 －スコープ検証 検査 －スコープ・コントロール 変更管理システム、差異分析、再計画、コンフィグレーション・マネジメント・システム

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト・タイム・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －アクティビティ定義 要素分解、テンプレート、ローリング・ウェーブ計画法、専門家の判断、計画構成要素 －アクティビティ順序設定 プレシデンス・ダイアグラム法(PDM)、アロー・ダイアグラム法(ADM)、スケジュール・ネットワーク・テンプレート、依存関係の決定、リードとラグの適用 －アクティビティ資源見積り 専門家の判断、代替案分析、公開見積りデータ、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、ボトムアップ見積り －アクティビティ所要期間見積り 専門家の判断、類推見積り、係数見積り、三点見積り、予備設定分析 －スケジュール作成 スケジュール・ネットワーク分析、クリティカル・パス法、スケジュール短縮、What-if シナリオ分析、資源平準化、クリティカル・チェーン法、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、カレンダーの適用、リードとラグの調整、スケジュール・モデル －スケジュール・コントロール 進捗報告、スケジュール変更管理システム、パフォーマンス測定、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、差異分析、バー・チャートによるスケジュール対比
プロジェクト・コスト・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －コスト見積り 類推見積り、資源単価、ボトムアップ見積り、係数見積り、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、ベンダー入札の分析、予備設定分析、品質コスト －コストの予算化 コスト集約、予備設定分析、係数見積り、限度額による資金調整 －コスト・コントロール コスト変更管理システム、パフォーマンス測定分析、予測、プロジェクトのパフォーマンス・レビュー、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、差異マネジメント
プロジェクト品質マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －品質計画 費用便益分析、ベンチマーク、実験計画法、品質コスト(COQ)、その他の品質計画ツール －品質保証 品質計画のツールと技法、品質監査、プロセス分析、品質管理のツールと技法 －品質管理 特性要因図、管理図、フローチャート化、ヒストグラム、パレート図、ラン・チャート、散布図、統計的サンプリング、検査、欠陥修正レビュー

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト人的資源マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －人的資源計画 組織図と順位記述書、ネットワーキング、組織論 －プロジェクト・チーム編成 先行任命、交渉、調達、バーチャル・チーム －プロジェクト・チーム育成 一般的なマネジメント・スキル、トレーニング、チーム形成活動、行動規範、コロケーション、表彰と報奨 －プロジェクト・チームのマネジメント 観察と会話、プロジェクトのパフォーマンス評価、コンフリクト・マネジメント、課題ログ
プロジェクト・コミュニケーション・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －コミュニケーション計画 コミュニケーションに対する要求事項の分析、コミュニケーション技術 －情報配布 コミュニケーション・スキル、情報収集検索システム、情報配布手法、教訓プロセス －実績報告 情報提示ツール、パフォーマンス情報の収集・編集、状況レビュー会議、タイム報告システム、コスト報告システム －ステークホルダー・マネジメント コミュニケーション手段、課題ログ
プロジェクト・リスク・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －リスク・マネジメント計画 計画会議と分析 －リスク識別 文書レビュー、情報収集技法(ブレインストーミング、デルファイ法、SWOT分析)、チェックリスト分析、前提条件分析、図解の技法 －定性的リスク分析 リスク発生確率・影響度査定、発生確率・影響度マトリックス、リスク・データ品質査定、リスク区分、リスク緊急度査定 －定量的リスク分析 データ収集・表現技法、定量的リスク分析とモデル化の技法(感度分析、期待金額価値分析、デシジョン・ツリー分析、モンテカルロ法) －リスク対応計画 マイナスのリスク(脅威)に対する戦略(回避、転嫁、軽減)、プラスのリスク(好機)に対する戦略(活用、共有、強化)、脅威・好機両面戦略(受容、コンティンジェンシ予備)、発生時対応戦略 －リスクの監視コントロール リスク再査定、リスク監査、差異・傾向分析、技術的実績の測定、予備設定分析、状況確認ミーティング

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト調達マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －購入・取得計画 内外製分析、専門家の判断、契約タイプ －契約計画 標準書式、専門家の判断 －納入者回答依頼 入札説明会、入札公告、適格納入者リストの作成
情報システム管理	<ul style="list-style-type: none"> －システム管理体系 組織と役割の設定、業務フローの策定、業務標準の策定、管理体制の確立 －ユーザ部門との関係管理 ユーザ、経営者の要望把握 －情報システム計画 システム化戦略の策定、システム化計画の策定 －システム開発 システム開発計画の策定と実施 －本番システムへの適用 システム移行計画の策定と実施 －情報サービスの支援 品質管理 －情報サービスの提供 システム運用 －情報資源の管理 情報システム資産計画策定と管理 －要件定義技法 現行業務分析、新規業務要件の把握、業務要件定義、現行IT環境分析、新規技術要件の把握、技術要件定義、インタビュー技法の活用と実践、要件定義書作成、ニーズの分析と優先順位付け －技術問題解決手法 技術問題解決手法の活用と実践 －最新技術動向 最新ハードウェア技術動向の把握、最新ミドルウェア技術動向の把握、最新プラットフォーム技術動向の把握、最新ネットワーク技術動向の把握、最新データベース技術動向の把握、最新セキュリティ技術動向の把握、最新システム管理技術動向の把握

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	アウトソーシングプロジェクトマネジメント実践
講座分類	<input type="checkbox"/> 入門講座 <input type="checkbox"/> 基礎講座 <input checked="" type="checkbox"/> 上級講座 <input type="checkbox"/> 特別講座
対象専門分野	<input type="checkbox"/> プロジェクトマネジメント共通 <input type="checkbox"/> システム開発 <input checked="" type="checkbox"/> ITアウトソーシング <input type="checkbox"/> ネットワークサービス <input type="checkbox"/> ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、「アウトソーシングプロジェクトマネジメント概説」の後続コースとして、アウトソーシングプロジェクトの実践において特に重要となる知識の修得を目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、アウトソーシングビジネスの成長段階とパートナーシップ、PMP(Project Management Profession)認定試験、契約、コスト管理、SLA事例、業務改善事例などの研究による各種考慮点、顧客満足度管理、アプリケーション開発管理型アウトソーシング、更には近年注目を集めている「プログラムマネジメント」に関する法則や特有の手法などを学習する。</p> <p>○ 当コースは、アウトソーシングプロジェクトマネジメント理論を講義形式で確認することに加え、具体的な適用方法、適用事例を中心に実践的なアウトソーシングプロジェクトマネジメントをワークショップ形式で学習する。</p>
受講対象者	プロジェクト責任者として、中規模以上で複雑なプロジェクトに関する複数回のプロジェクトマネジメントの経験を有する者(プロジェクトマネジメント(専門分野:ITアウトソーシング)のレベル6を目指す者)
受講前提	「アウトソーシングプロジェクトマネジメント概説」を修了していること。
研修方法	講義、ワークショップ
期間	標準日数 5日 (クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	実践的なアウトソーシングビジネスの知識を活用し、アウトソーシングプロジェクトのプロジェクト責任者として、顧客企業にとって極めて戦略的な意味を持つアウトソーシングプロジェクトを実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト統合マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －プロジェクト憲章作成 プロジェクト選定手法、プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクト・スコープ記述書暫定版作成 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －プロジェクトマネジメント計画書作成 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断 －統合変更管理 プロジェクトマネジメント方法論、プロジェクトマネジメント情報システム(PMIS)、専門家の判断
プロジェクト・スコープ・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －スコープ計画 専門家の判断、テンプレート、書式標準 －スコープ定義 プロダクト分析、代替案識別、専門家の判断、ステークホルダー分析 －WBS作成 ワーク・ブレイクダウン・ストラクチャーのテンプレート、要素分解 －スコープ検証 検査 －スコープ・コントロール 変更管理システム、差異分析、再計画、コンフィグレーション・マネジメント・システム

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト・タイム・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －アクティビティ定義 要素分解、テンプレート、ローリング・ウェーブ計画法、専門家の判断、計画構成要素 －アクティビティ順序設定 プレシデンス・ダイアグラム法(PDM)、アロー・ダイアグラム法(ADM)、スケジュール・ネットワーク・テンプレート、依存関係の決定、リードとラグの適用 －アクティビティ資源見積り 専門家の判断、代替案分析、公開見積りデータ、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、ボトムアップ見積り －アクティビティ所要期間見積り 専門家の判断、類推見積り、係数見積り、三点見積り、予備設定分析 －スケジュール作成 スケジュール・ネットワーク分析、クリティカル・パス法、スケジュール短縮、What-if シナリオ分析、資源平準化、クリティカル・チェーン法、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、カレンダーの適用、リードとラグの調整、スケジュール・モデル －スケジュール・コントロール 進捗報告、スケジュール変更管理システム、パフォーマンス測定、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、差異分析、バー・チャートによるスケジュール対比
プロジェクト・コスト・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －コスト見積り 類推見積り、資源単価、ボトムアップ見積り、係数見積り、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、ベンダー入札の分析、予備設定分析、品質コスト －コストの予算化 コスト集約、予備設定分析、係数見積り、限度額による資金調整 －コスト・コントロール コスト変更管理システム、パフォーマンス測定分析、予測、プロジェクトのパフォーマンス・レビュー、プロジェクトマネジメント・ソフトウェア、差異マネジメント
プロジェクト品質マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －品質計画 費用便益分析、ベンチマーク、実験計画法、品質コスト(COQ)、その他の品質計画ツール －品質保証 品質計画のツールと技法、品質監査、プロセス分析、品質管理のツールと技法 －品質管理 特性要因図、管理図、フローチャート化、ヒストグラム、パレート図、ラン・チャート、散布図、統計的サンプリング、検査、欠陥修正レビュー

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト人的資源マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －人的資源計画 組織図と順位記述書、ネットワーキング、組織論 －プロジェクト・チーム編成 先行任命、交渉、調達、バーチャル・チーム －プロジェクト・チーム育成 一般的なマネジメント・スキル、トレーニング、チーム形成活動、行動規範、コロケーション、表彰と報奨 －プロジェクト・チームのマネジメント 観察と会話、プロジェクトのパフォーマンス評価、コンフリクト・マネジメント、課題ログ
プロジェクト・コミュニケーション・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －コミュニケーション計画 コミュニケーションに対する要求事項の分析、コミュニケーション技術 －情報配布 コミュニケーション・スキル、情報収集検索システム、情報配布手法、教訓プロセス －実績報告 情報提示ツール、パフォーマンス情報の収集・編集、状況レビュー会議、タイム報告システム、コスト報告システム －ステークホルダー・マネジメント コミュニケーション手段、課題ログ
プロジェクト・リスク・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －リスク・マネジメント計画 計画会議と分析 －リスク識別 文書レビュー、情報収集技法(ブレインストーミング、デルファイ法、SWOT分析)、チェックリスト分析、前提条件分析、図解の技法 －定性的リスク分析 リスク発生確率・影響度査定、発生確率・影響度マトリックス、リスク・データ品質査定、リスク区分、リスク緊急度査定 －定量的リスク分析 データ収集・表現技法、定量的リスク分析とモデル化の技法(感度分析、期待金額価値分析、デシジョン・ツリー分析、モンテカルロ法) －リスク対応計画 マイナスのリスク(脅威)に対する戦略(回避、転嫁、軽減)、プラスのリスク(好機)に対する戦略(活用、共有、強化)、脅威・好機両面戦略(受容、コンティンジェンシ予備)、発生時対応戦略 －リスクの監視コントロール リスク再査定、リスク監査、差異・傾向分析、技術的実績の測定、予備設定分析、状況確認ミーティング

対象スキル項目	関連する知識
プロジェクト調達マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> －購入・取得計画 内外製分析、専門家の判断、契約タイプ －契約計画 標準書式、専門家の判断 －納入者回答依頼 入札説明会、入札公告、適格納入者リストの作成
情報システム管理	<ul style="list-style-type: none"> －システム管理体系 組織と役割の設定、業務フローの策定、業務標準の策定、管理体制の確立 －ユーザ部門との関係管理 ユーザ、経営者の要望把握 －情報システム計画 システム化戦略の策定、システム化計画の策定 －システム開発 システム開発計画の策定と実施 －本番システムへの適用 システム移行計画の策定と実施 －情報サービスの支援 品質管理 －情報サービスの提供 システム運用 －情報資源の管理 情報システム資産計画策定と管理 －要件定義技法 現行業務分析、新規業務要件の把握、業務要件定義、現行IT環境分析、新規技術要件の把握、技術要件定義、インタビュー技法の活用と実践、要件定義書作成、ニーズの分析と優先順位付け －技術問題解決手法 技術問題解決手法の活用と実践 －最新技術動向 最新ハードウェア技術動向の把握、最新ミドルウェア技術動向の把握、最新プラットフォーム技術動向の把握、最新ネットワーク技術動向の把握、最新データベース技術動向の把握、最新セキュリティ技術動向の把握、最新システム管理技術動向の把握

コース名 研修コースの内容	アウトソーシングプロジェクトマネジメントのための会計・経営管理概説
講座分類	□入門講座 □基礎講座 ■上級講座 □特別講座
対象専門分野	□プロジェクトマネジメント共通 □システム開発 ■ITアウトソーシング □ネットワークサービス □ソフトウェア製品開発
コース概要	<p>当コースは、アウトソーシングプロジェクトを実施、運営する際に必要となる、企業会計、経営管理に関してより深い知識の修得を目的とする。</p> <p>○ 当コースでは、時価主義会計、連結会計、キャッシュフロー会計、年金会計、税効果会計、研究開発費とソフトウェア会計等の企業会計と、キャッシュフロー経営、グループ経営、BPR(Business Process Reengineering)、ABC、ABM(Activity Based Costing 、 Activity Based Management)、人材マネジメント、グループ経営管理システム等の経営管理手法などを学習し、会計ビッグバンによる企業経営のパラダイムシフトを理解する</p> <p>○ 当コースは、顧客の経営者層が抱えている課題を理解するための会計制度、経営管理知識をeラーニング形式で学習する。</p>
受講対象者	プロジェクト責任者として、中規模以上で複雑なプロジェクトに関する複数回のプロジェクトマネジメントの経験を有する者(プロジェクトマネジメント(専門分野:ITアウトソーシング)のレベル6を目指す者)
受講前提	「アウトソーシングプロジェクトマネジメント概説」を修了していること。
研修方法	eラーニング
期間	標準時間 12時間 (eラーニング 1日 6時間×2日)
研修修了後のスキル修得目標	アウトソーシングプロジェクトの持つ経営管理上の意義と効果を十分理解し、アウトソーシングプロジェクトのプロジェクト責任者として、プロジェクトを効果的に実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
情報システム管理	-企業会計 時価主義会計、連結会計、キャッシュフロー会計、年金会計、税効果会計、研究開発費とソフトウェア会計 -企業経営 キャッシュフロー経営、グループ経営とBPR(Business Process Reengineering)、ABC(Activity Based Costing)、ABM(Activity Based Management)、人材マネジメント、グループ経営管理システム